

ビルマ語文法(1年次)

1999

澤田 英夫

(東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所)

目 次

第1課 文の構造の要(1)	1
第2課 文の構造の要(2)	3
「文の構造の要」まとめ	5
第3課 動詞をとりまく要素(1) —— 格句(格を持った名詞句)	6
第4課 特殊な意味を持つ名詞(句)	8
第5課 動詞の拡張(1) —— 「単純でない」動詞の組み立て	10
第6課 動詞の拡張(2) —— 動詞を補助する小辞	12
第7課 数量を表す表現	14
第8課 動詞をとりまく要素(2) —— 格名詞によってつくられる格句	16
∞ -による動詞からの派生名詞	17
第9課 動詞をとりまく要素(3) —— 従属節	18
文をつくる小辞 ㄹ	19
第10課 動詞の連続(1) —— 基本型と補助動詞を含む連続	20
第11課 動詞の連続(2) —— 副詞的動詞を含む連続	22
動詞の重複によってできた派生名詞	23
第12課 名詞句の構成要素	24
第13課 話し手のモードの表示	26
第14課 動詞をとりまく要素(4) —— 引用文と名詞化節	28
名詞化節 ㄹ による複合名詞の「もの」用法	29
第15課 非動詞文と談話の流れを表す小辞	30
口語体ビルマ語の文法に関する総まとめ	32
索引	33
ビルマ語形式索引	33
文法事項索引	39

第1課 文の構造の要(1)

1. 動詞文

1.1. 最小の動詞文

・最小の動詞文は、**動詞+文をつくる小辞** からなる。

ရှိတယ်။	ကြိုက်တယ်။	ကြီးတယ်။	အေးတယ်။
လှတယ်။	ကောင်းတယ်။	စားတယ်။	ပေးတယ်။
ကြည့်တယ်။	သွားတယ်။	ရောက်တယ်။	ပွင့်တယ်။

※動詞を覚える際には、後に-တယ်をつけて覚えるのが実用的である。逆に、ある語が動詞かどうかを見分けるには、その語が後に-တယ်を伴うことができるかどうかを見ればよい。

1.2. 言い切りを表す文(1):-တယ်によってつくられるもの

・-တယ်はある内容を言い切る(陳述する)文を作る小辞であり、以下に示すいくつかの解釈を持つ。

解釈その1: 現在の出来事

ရှိတယ်။ 「ある」 ကြိုက်တယ်။ 「好む」 ကြီးတယ်။ 「大きい」 ကောင်းတယ်။ 「良い」

この解釈を取る動詞: 状態を表す動詞(状態動詞)だけ。

နေ-「とどまる、住む」 ချော်-「楽しんでいる」 ထင်-「思う」 မှန်-「正しい」
 လှ-「美しい」 ပူ-「暑い、熱い」 များ-「多い」 ရ-「かまわない」 など

解釈その2: 過去の出来事

စားတယ်။ 「食べた」 ပေးတယ်။ 「与えた」 သွားတယ်။ 「行った」 ပွင့်တယ်။ 「開いた」

この解釈を取る動詞: 状態動詞に加え、動作や変化など、動きのある出来事を表す動詞(動態動詞)

လုပ်-「する」 ကြည့်-「見る」 ဖတ်-「読む」 လာ-「来る」
 အိပ်-「眠る」 ထိုင်-「座る」 ရ-「得る」 ရောက်-「至る」
 သေ-「死ぬ」 ပျက်-「壊れる」 ကျ-「落ちる」 လဲ-「倒れる」 など

※ただし、状態動詞を用いて過去の状態を表すためには、過去の時を表す表現が必要。

解釈その3: 現在の習慣、不変の出来事

(例文は次の課以降で挙げる。今は「こういう解釈もあるんだ。」ということだけ心に留めておこう。)

1.3. 言い切りを表す文(2):-မယ်によってつくられるもの

・-မယ်も-တယ်と同様、言い切り(陳述)の文を作る小辞であるが、解釈のしかたが異なる。

စားမယ်။ 「 <u>食べる(未来)、食べよう、食べるだろう</u> 」	သွားမယ်။ 「 <u>行く(未来)、行こう、行くだろう</u> 」
ပွင့်မယ်။ 「 <u>開く(未来)、開くだろう</u> 」	ရှိမယ်။ 「 <u>あるだろう</u> 」
ကြိုက်မယ်။ 「 <u>好むだろう</u> 」	ကောင်းမယ်။ 「 <u>良いだろう</u> 」

解釈その1:未来の出来事

解釈その2:話し手がこれから行うつもりの出来事

※話し手自身が自らの意志で行う動作の場合に限られる。

解釈その3:推量・想像された出来事

1.4.否定の言い切りを表す文

- ・ビルマ語で否定を表すのは、動詞の前に付く $\omega-$ である。
- ・それに加えて、言い切りの文の形をなすためには、文をつくる小辞 $-\text{တူ}$ が必要である。

$\omega\text{တူ}$ || 「食べなかつた、食べない、食べないだろう」

$\omega\text{ပွင့်တူ}$ || 「開かなかつた、開かない、開かないだろう」

$\omega\text{ရှိတူ}$ || 「なかつた、ない、ないだろう」

・否定の言い切りの文には、 $-\text{တယ်}$ と $-\text{မယ်}$ の間に見られるような区別はない。 $\omega-$ は、現在／過去／未来； 1回の出来事／習慣・不変の出来事； 現実／推量・想像いずれの否定も表す。

1.5.禁止を表す文

- ・禁止＝否定の要求であるから、 $\omega-$ が必要である。
- ・文を作る小辞としては、 $-\text{နဲ့}$ が用いられる。

$\omega\text{တနဲ့}$ || 「食べるな」 $\omega\text{ပေးနဲ့}$ || 「与えるな」 $\omega\text{သွားနဲ့}$ || 「行くな」

・要求を表す文に用いられる動詞のほとんどは、自らの意志で行う動作を表す動詞である。

1.6.(肯定の)要求を表す文

တးတယ်	食べた、食べる(現在の習慣)	丁寧な言い方 တးပါတယ်
တးမယ်	食べる(未来)、食べよう、食べるだろう	တးပါတယ်
$\omega\text{တူ}$	食べなかつた、食べない(習慣・未来とも)、食べないだろう	$\omega\text{တူ}$
$\omega\text{နဲ့}$	食べるな	$\omega\text{နဲ့}$
တး	<u>食</u> べろ	တး

・肯定の要求を表す文は、文を作る小辞を持たないことによって、小辞を持つ他の文から区別される。

・自らの意志で行う動作を表す動詞が用いられる点は、否定の場合と変わらない。

※特に要求を表す文の場合、そのままだと語調がきつくなるので、動詞と小辞の間に、丁寧な語調を表す小辞 $-\text{ဝါ}$ をはさんだ方が、たいていの場合適切である。(意識してきつい語調で言いたい場合はもちろん $-\text{ဝါ}$ なしでよいわけだが、自分と相手の関係をよく測ったうえでお試しください。)言い切りの文の場合には、要求の文の場合ほど気を使わなくてよい。

第2課 文の構造の要(2)

2. 名詞文

2.1. 言い切りの文

・ 極端な言い方をすると、名詞(句)ひとつだけでも文をなすことができる…

ရှေ့။ လက်ဆောင်။ はい。プレゼント。

…はずなのだが、実際にはこのような形にはあまり出くわさず、しかもかなりぞんざいな言い方である。初めのうちは、要求を表す動詞文の場合と同様、丁寧な語調を表す小辞の-ပါを後に添えるのが無難。

တက္ကသိုလ်ကျောင်းသားပါ။ 大学生(男子の)です。(女子の学生の場合はကျောင်းသူ)

ယဉ်ယဉ်အေးပါ။ インインエー(女性の名前)です。(電話の第一声などで。)

မင်္ဂလာပါ။ こんにちは。(直訳すると、「吉祥です。’) တက္ကသိုလ် [vʁamɛt qʔmɔ̃lɑ] o kɔ̃?ɛɪɪ?ɪ

※-ပါは、単に聞き手に対して失礼にならないようにという配慮から必要となるのであって、日本語の「-だ」のように、それがなければ文の形をなさない、という類のものではない。

※前課で学習した文をつくる小辞-တယ်-မယ်などが、名詞(句)と結び付くことはない。だから、動詞を-တယ်つきできちんと記憶していれば、「-တယ်のつかない語彙=名詞」だと自動的にわかる。簡単すぎてバカバカしいと思う人もいるだろうが、この基本をおろそかにしていると、たぶん後で判断に困る例に出会うことになる。単語帳や単語カードを作ろうという気になった奇特な方は、ぜひそのへんに気をつけて。

※普通名詞の例

ခွေး	ကြောင်	ငှက်
စာအုပ်	အိတ်	မာ
နာရီ	မျက်မှန်	တယ်လီဖုန်း
ကျောင်း	တတိုက် [ʔucʔɔ̃dɔ̃]	" တကြည့်တိုက် [ʔucʔkɔ̃dɔ̃]
ခဲတံ [ʔmɔ̃tʃɔ̃]	စားပွဲ [ʔɛdɔ̃]	ကုလားထိုင် [ʔmɔ̃tʃɔ̃]

2.2. 否定の言い切りの文

・ 否定辞မ-も、文をつくる小辞-ဘူးも、直接名詞につくことはできない(ちゃんと理解できてますか?)。つまり、動詞文の場合と全く同じやり方で否定の言い切りの名詞文をつくることはできない。
 ・ それで、名詞文を否定にする場合は、動詞ဟုတ်-「そうである」を否定にしたမဟုတ်ဘူး「そうでない」を名詞の後に置く。つまり、名詞文の否定は、文全体の形としては、動詞文になるのである。

တက္ကသိုလ်ကျောင်းသား မဟုတ်ဘူး။ 大学生(男子の)ではない。

ယဉ်ယဉ်အေး မဟုတ်ပါဘူး။ インインエーではありません。

3. 主語

ကျနော် တက္ကသိုလ်ကျောင်းသားပါ။ 私は大学生(男子の)です。

အစ်ကို ရှိပါတယ်။ 兄が/兄はいます。 အဖေ သွားမယ်။ お父さんは/が行く。

သူ မစားဘူး။ 彼は食べない。 ကျမ ယဉ်ယဉ်အေး မဟုတ်ဘူး။ 私はインインエーではない。

ကိုဖြိုးဝေ လာပါ။ ピョーウエーくん、おいで。 ညီလေး မအိပ်နဲ့။ 弟、眠るな。

・ 動詞文・名詞文とも、名詞(句)を主語として持つことができる。(主語以外の部分を「述部」と呼ぶ)

・主語の後に、日本語の「が」(格助詞)や「は」(係助詞)のような小辞がつく場合もある。しかし、少なくとも**口語体(話し言葉の形式)の場合には、上の例のように何もつかない形が最も普通である。**(主語につく小辞については後で学習するが、あくまでも何もつかない形が普通であることを忘れないように。)

※主語として用いられることの多い、人称名詞・指示名詞の例

ကျနော် 我(話し手が男性の場合)

ကျမ 我(話し手が女性の場合)

ခင်ဗျား၊ မိမိ {c: "あなた(話し手が男性の場合)}

ရှင် 你(話し手が女性の場合)

(いずれも、聞き手は男性・女性のどちらでもかまわない。ただし、どちらも会話では多用されない。)

သူ 彼・彼女(男性・女性を区別しない) ဒါ 此れ ဒဲဒါ それ・あれ(少し離れたところにあるもの)

4. 疑問の表現

4.1. 二者択一疑問文(yes-no疑問文):文末に、疑問文であることを表す小辞-လားをつける。

4.1.1. 名詞文の場合

・末尾の名詞に直接-လားをつける。**丁寧を表す小辞-ဝါは現れてはいけない。**

※-ဝါがなくてもぞんざいに聞こえることはないので、ご安心を。

(ခင်ဗျား၊ ရှင်) တက္ကသိုလ်ကျောင်းသားလား။

အေးအေးသော်လား။ စိန်စိန်သော်လား။

4.1.2. 動詞文の場合(名詞文を否定の言い切りにしたမဟုတ်ဘူးの場合を含む。)

・文をつくる小辞のあるものは、-လားがつくと形が変わる。

ရှိ(ပါ)တယ်။ → ရှိ(ပါ)သလား။ သွား(ပါ)မယ်။ → သွား(ပါ)မလား။

မဟုတ်(ပါ)ဘူး။ → မဟုတ်ဘူးလား။(小辞の形が変わらない)

4.2. 疑問語句を含む疑問文(wh-疑問文):文末に、この種の疑問文であることを表す小辞-လဲをつける。

・まず、最もよく使われる次の2つの疑問詞から覚えよう: တာ 「何」 တယ်သူ 「誰」

4.2.1. 名詞文の場合

・**疑問詞が末尾に来て**、その後ろに-လဲがつく。やはり-ဝါは現れない。

တယ်သူလဲ။

ဒါ တာလဲ။

4.2.2. 動詞文の場合

・文をつくる小辞のあるものは、-လားの場合と同様に形が変わる。

တာ ရှိ(ပါ)သလဲ။ တယ်သူ သွား(ပါ)မလဲ။

・否定は、-ဘူးによるものと、肯定の場合のように-ဝဲによるものの2種類があり、解釈がやや異なる。

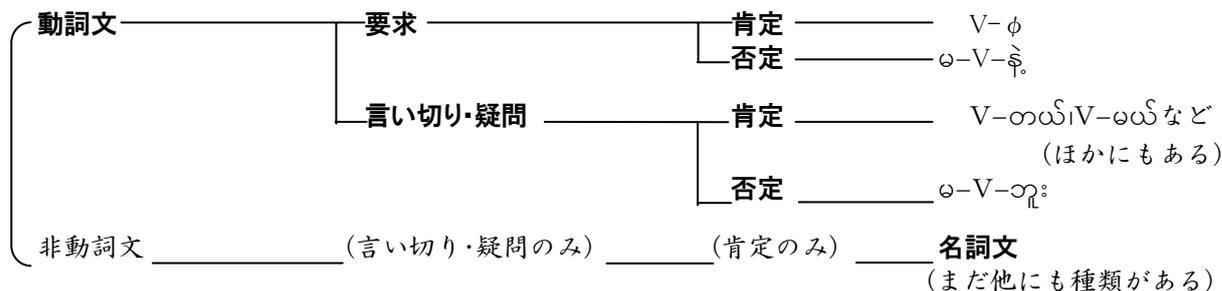
တယ်သူ မလာဘူးလဲ။ 誰が来ない/来なかった?

တယ်သူ မလာသလဲ။ 誰が来なかった?(未来の解釈はできない。)

※否定の疑問文には(二者択一型/疑問詞を含む型の両方とも)、丁寧を表す-ဝါがつかない。

「文の構造の要」 まとめ

☆文の分類(バージョン1)



- ・ Vは動詞、Nは名詞(句)を表す。
- ・ φは、「目に見える要素が何も現れない」ということを表す抽象的な記号である。

★ビルマ語の語類(word class: 一般的には「品詞」と呼ばれるものに相当)(バージョン1)

内容語類
(語彙的内容を持つ形式)

- 動詞類 (V)** 動詞文をつくる小辞と結び付いて動詞文の述部となるもの
意味的には、動態動詞・状態動詞に下位区分できる。
- 名詞類 (N)** 動詞文の述部となれないもの
意味的には、普通名詞・人称名詞・指示名詞などに下位区分できる。

機能語類
(文法的機能を担う形式)

- 小辞類**
 - 「つくる」小辞 ——— 文をつくる…-ဝယ်၊-ဝယ်၊-ဘူး၊-နဲ၊-φ など
 - 「表す」小辞 ——— 疑問文を表す…-လား၊-လဲ
丁寧な語調を表す…-ဝါ
 - 「補助する」小辞(まだテキスト中に現れていない)
- 接辞類** 動詞・名詞に付加して、その語の持つ意味的・文法的性質を変化させた語をつくる。否定のφ-は接辞類である。ビルマ語では数が少ない。

「えっ、これだけ?」「形容詞はないの? 代名詞は?」などと疑問に思った人のために…
筆者は、「文の中でどのように働くか、その働き方によって語類を決定する」という立場に立っている。

・ 形容詞:状態動詞のうちのあるものを「形容詞」と呼ぶ人もいるが(特にビルマの学者に多い)、語の働きの点からみて、ビルマ語では「形容詞」を動詞から区別する必要はない。ဝေး-「食べる」もဝေဝေ-「良い」も、文の中での働き方はほとんど変わらない。(とはいえ、永年の習慣は改めにくいもの。どこかでビルマ語の「形容詞」についての発言を聞いたら、「ああ、あれは状態動詞の一部のことを言っているんだな」と好意的に解釈してあげてください。)

※「日本語(あるいは英語・パリー語)の形容詞で訳せるビルマ語の単語は、ビルマ語においても形容詞に分類される。」という考え方は、全く理屈の通らないものである。そういうことを言う人は、「他の言語にある語類は、当然ビルマ語にもあるべきだ」「他の言語にある語類がビルマ語にないのは恥ずべきことだ」などと思っているのだろうか。そんなきまりや価値観を持ち込むと、言語の本当の姿が見えなくなってしまう。

・ 代名詞:ကျေန်「私」や၊ဒါ「これ」などが、具体的な人やものの代用表現として使われる、というのは、これらの語の意味的な性質であって、文の中での働きとはかかわりないことである。だから、名詞の中から「代名詞」を独立させる必要性は、ビルマ語の場合には(日本語の場合にも)ない。名詞の下位区分とするだけで十分である。

第3課 動詞をとりまく要素(1) —— 格句(格を持った名詞句)

第1課・第2課では、ビルマ語の文構造の要となる、述部と主語について説明した。
名詞文の場合には、主語と述部の間に次のような関係が成り立つ。

သူ	တက္ကသိုလ်ကျောင်းသူ	(ဝါ)။
主語	述部	
=「話題となる要素」		=「話題について語られる内容」

そして、名詞(句)からなる述部と主語だけで、とりあえず文は完結する。

しかし、動詞文の場合には、述部が**動詞+文をつくる小辞**だけでは「足りない」場合も多い。「足りない」ものを補う要素、それをここでは**補語**と呼ぶことにする。

1. 対象の補語

動作を直接被るもの、動作によって動かされたり、変化させられたりするもの、感情・感覚などの向けられる相手、動作によって生じるもの、など。

1.1. ものの場合

・何もつかないままの名詞句を、通常は動詞の直前に置く。

ထမင်း စားတယ်။	ဘောင်းဘီ ဝတ်မယ်။	စာအုပ် မဖတ်ဘူး။
သစ်သား သယ်ပါ။	ခဲတံ မချိုးပါနဲ့။	ပိုက်ဆံ ရပါတယ်။
ကြက်သား ကြိုက်သလား။	ခွေး မကြောက်ဘူးလား။	ရုပ်ရှင် ကြည့်မလား။
စာ မရေးပါဘူး။	အိမ် ဆောက်ပါမယ်။	ဘာဟင်း ချက်မလဲ။

※主語と形が同じ(どちらも、何もつかない名詞句)であるが、対象の補語を取る動詞の多くは、主語として人を表す名詞句を取るのも、対象がものである限り、混同が生じることはない。

1.2. 人の場合

・対象も人である場合には、何もつかないと主語と混同するおそれがあるので、**-ကိုをつける**。

ကလေးကို မရိုက်ပါနဲ့။	ရန်သူကို သတ်သလား။	အမကို ခေါ်ပါ။
မင်းကို ချစ်တယ်။	လူကြီးကို မကြောက်ဘူး။	ဆရာကို ကြည့်မယ်။

※対象の補語と動詞の間に何か他の要素が入る場合には、対象がものであっても**-ကို**がつくことがある。(ものである対象の補語が、動詞の直前にある場合には、**-ကို**をつけるとややくどい。)

ဘောင်းဘီကို ကျမ ဝတ်မယ်။	စာအုပ်(ကို) လုံးဝ မဖတ်ဘူး။
အမကို ချက်ချင်း ခေါ်ပါ။	ကလေးကို ရှင် မရိုက်ပါနဲ့။

※特定の個人(または集団)が特定の個人(集団)に対して行なう事柄を表す文で、「**どちらがどちらに行なったのか**」という点を特にはっきり示したい場合、**主語の後に-ဝをつける**。(主語が-ဝを伴うのは、主語を「際立たせ」ようとする意図が働く場合である、という点に留意しなければならない。主語が現れるごとにいちいち-ဝをつけるのは、話し言葉としては絶対に変。)

မောင်မောင်က မောင်ဘကို ရိုက်တယ်။	ဘယ်သူက ဘယ်သူကို ရိုက်သလဲ။
အာဂျင်တီးနားအသင်းက ဂျပန်အသင်းကို နိုင်တယ်။	မောင်မောင်က မမကို ချစ်တယ်။

1.3. 2つの対象

第4課 特殊な意味を持つ名詞(句)

第3課までで、文の基本的な骨組みの作り方を学習した。しかし、骨組みだけでは実際に言語を使うことはできない。この課では、文の主語・補語あるいは名詞文の述部として用いられる名詞(句)のうち、特殊な意味を持つものを中心に学習する。

1. 指示名詞

	指示			疑問
	近い	少し離れた	かなり離れた	
もの	ဒါ 「これ」 (ဒီတာ)	အဲဒါ 「それ」 (အဲဒီတာ)	ဟိုတာ 「あれ」	ဘယ်တာ 「どれ」、ဘာ 「何」
場所	ဒီ 「ここ」	အဲဒီ 「そこ」	ဟို 「あそこ」	ဘယ် 「どこ」
名詞修飾形	ဒီ-N 「このN」	အဲဒီ-N 「そのN」	ဟို-N 「あのN」	ဘယ်-N 「どのN」、ဘာ-N 「何のN」

1.1. ものの指示名詞

・ いずれも、後で見る名詞修飾形+名詞「もの」の組み合わせである。ဒါ၊ အဲဒါはそれぞれဒီ+တာ၊ အဲဒီ+တာが融合してできたもの。(おそらくဘာもဘယ်+တာが融合してできたものと思われるが、もとのဘယ်တာとは意味が異なっていることに注意。)

・ 原則として、ものや事柄を指す。人を指せるのはဒါ၊ အဲဒါだけで、それもごく限られた場合である。

မောင်ဘကို ဒါ ပေးမယ်။ ဘယ်တာ ကြိုက်သလဲ။ -- ဒီတာ ကြိုက်တယ်။
 ဟိုတာကို ကြည့်ပါ။ ရှင် ဆရာဝန်ကို ဘာ ပြောသလဲ။
 အဲဒါ သူ သိတယ်။ ဘာနဲ့ သွားမလဲ။ -- ကားနဲ့ သွားမယ်။
 အဲဒါ ဘာလဲ။ -- (အဲဒါ) လက်ပတ်နာရီပါ။ ဒါ ကျမသူငယ်ချင်းပါ။

1.2. 場所の指示名詞

・ 必ずと言ってよいほど、格句をつくる小辞-ကို(着点)-မှာ(位置)-က(起点)と共に用いられる。

ဒီကို လာပါ။ ဘယ်(ကို) သွားမလဲ။ -- တရုပ်တန်းကို သွားမယ်။
 အဲဒီမှာ ထိုင်ပါ။ ဟိုမှာ လူအများကြီး ရှိတယ်။
 ဒေါ်ခင်မေနဲ့ ဘယ်မှာ နေသလဲ။ မအေးအေးအောင် ဒီမှာ အလုပ် လုပ်တယ်။
 ဘယ်က လာသလဲ။ အင်းဝစာအုပ်ဆိုင် ဒီက ဝေးသလား။

※場所の指示名詞は、主語や名詞文の述部にはなれない。だから、「ここはどこですか?」という日本語の文をビルマ語で厳密に直訳することはできない。

1.3. 指示名詞の名詞修飾形

・ 普通名詞を限定修飾する。人/もの/事柄/場所/時間を問わず用いられる。

ဒီကျောင်းသားကို မှတ်မိသလား။ အဲဒီလူကို ကောင်းကောင်း သိတယ်။
 ဒီထမင်းဆိုင် ကောင်းသလား။ ဘယ်စာအုပ် ဝယ်မလဲ။ -- ဟိုစာအုပ် ပေးပါ။
 ဘာဟင်းနဲ့ (ထမင်း) စားမလဲ။ ကျနော် ဒီအကြောင်းကို သိတယ်။
 အဲဒီဟိုတယ်မှာ တည်းတယ်။ ဘယ်မှတ်တိုင်မှာ ဆင်းမလဲ။
 ဒီနေရာ ဘယ်နေရာလဲ။ အဲဒီအခါမှာ သူ ရုံးမှာ ရှိတယ်။

2. 人称名詞

		話し手「私」		聞き手「あなた」		第3者 「彼/彼女」	疑問「誰」
		話し手が男性	話し手が女性	話し手が男性	話し手が女性		
単数	基本形	ကျနော်	ကျမ	ခင်ဗျား	ရှင်	သူ	ဘယ်သူ
	下降調形	ကျနော့	ကျမ	ခင်ဗျာ့(း)	ရှင့်	သူ့	ဘယ်သူ့
	名詞修飾形	ကျနော့-N	ကျမ-N	ခင်ဗျာ့(း)-N	ရှင့်-N	သူ့-N	ဘယ်သူ့-N
複数 (3形共通)		ကျနော်တို့	ကျမတို့	ခင်ဗျားတို့	ရှင်တို့	သူတို့	-

※話し手・聞き手を指す名詞はこの他にもあるが、「習い始めの外国人」にとって無難な形を挙げた。

2.1. 下降調形

・人称名詞が**格句をつくる小辞**-တို့၊-မှာを伴う場合、最終音節の声調を下降調に変化させた形を用いる。

[eɛp-ʔ] → [eɛp-0] [uɪkʰ-ʔ] → [uɪkʰ-0] [tʰw-ʔ] → [tʰw-0] [dɛdw-ʔ] → [dɛdw-0] [mɛo] {c: -} → [mɛo] {c0}

※基本形が高平調で終わるခင်ဗျားの場合には、変化する形(ခင်ဗျာ့)と変化しない形(ခင်ဗျားのまま)の両方が見られる。また、基本形が下降調で終わる場合には、変化しようがないのでそのままである。

・基本形が低平調で終わる場合には、必ず**声調符号 -**を用いて**声調変化を綴字に反映させる**。特に第3者と疑問の場合に例外的綴字となるのに注意。(- と - が同時に現れることは、この場合以外ない。)

ကျနော့ကို ခေါ်ပါ။ ခင်ဗျာ့ကို စာ ရေးတယ်။ ရှင့်ကို ကော်ဖီ တိုက်မယ်။
 ဘယ်သူ့ကို အဘိဓာန် ငှားသလဲ။ ကျမကို ဗမာစကား သင်ပေးပါ။
 သူတို့ကို အကူအညီ ပေးမယ်။ သူ့မှာ အပြစ် မရှိဘူး။

※補語であっても、格句をつくる小辞-နဲ့を伴う場合だけは、下降調形を用いない。

ကျမ သူနဲ့ တွေ့တယ်။ cf. ကျမ သူ့ကို တွေ့တယ်။ ကျနော်နဲ့ လိုက်မလား။

2.2. 名詞修飾形

ကျနော့အိတ်၊ သူ့ပိုက်ဆံ၊ ကျမဘိနပ်၊ ကျနော်တို့အိမ်၊ ဘယ်သူ့ထီးလဲ။

3. 局所名詞

(အ)ပေါ် 上	ရှေ့ 前	(အ)ထဲ 中	ဘယ်ဘက် 左側	ဒီဘက် こちら側
↕	↕	↕	↕	↕
အောက် 下	နောက် 後	အပြင် 外	ညာဘက် 右側	တယ်ဘက် どちら側
				ဟိုဘက် あちら側

(အ)ကြား 間 (အ)နား 近く N-ဘက် Nの側 N-ဆီ Nのところ(多くの場合、Nは人間)

・単独で漠然とした場所を表す(表でN-のつく形以外)。また、ものや人の名詞と結び付いて、それらの名詞を場所名詞に変換し、**着点・位置・起点の補語として用いることができるようにする働きも持っている**。

・指示名詞・人称名詞とも結び付くが、その場合、指示名詞・人称名詞の**名詞修飾形を用いる**。

・通常、(အ)は、普通名詞との結合では脱落し、指示名詞・人称名詞との結合および単独では脱落しない。

အပေါ်ကို တက်မလား။ စားပွဲပေါ်မှာ ထားပါ။ အဲဒီအောက်မှာ ဘာ တွေ့သလဲ။
 သူ့ရှေ့မှာ ထိုင်တယ်။ အခန်းထဲကို မဝင်ဘူး။ အပြင်ကို ထွက်မယ်။
 ဘယ်ဘက်ကို တွေ့မလဲ။ -- ဘယ်ဘက်ကို တွေ့ပါ။ ဒီဘက်ကို လာပါ။
 သူတို့အကြားမှာ ရပ်တယ်။ ဒီအနားမှာ ဆိုင် ရှိသလား။ သူ့ဆီကို စာ ပို့မယ်။

第5課 動詞の拡張(1) —— 「単純でない」動詞の組み立て

これまで学んだ動詞は、ほとんど全て単音節からなる、それ以上分解できない動詞(単純動詞)であった。実際の文中には、「単純でない」動詞、言い換えれば、いくつかの要素の組み合わせによって出来た動詞も多く見られる。本課では、「単純でない」動詞の組み立て方を学習する。

1. 動詞+名詞の組み合わせ

1.1. なじみのペア

・動詞(V)とその主語・補語(N)の中には、セットにして用いられる頻度が高いものがある。

နေ ပူ	မိုး ရွာ	လေ တိုက်	ခြင် ကိုက်
မီး ငြိမ်း	သီချင်း ဆို	ဥ အု	အိပ်မက် မက်
ဆေး ကု	အပ် ချုပ်	မီး ကင်	အရက် မူး
ဗိုက် ဆာ	အရပ် ပု	အသက် ကြီး	အလုပ် များ

လက် ဆေး၊ အဝတ် လျှော်၊ မျက်နှာ သစ် ခွေး ဟောင်း၊ ကျား ဟိန်း၊ ခြင်္သေ့ ဟောက်

1.2. NVイディオム

・N+Vの組み合わせが、文字通りの意味とは異なる意味を表すイディオムになってしまったものも多い。

လမ်း လျှောက်	ရေ ကူး	နှုတ် ဆက်	လက် ထပ်
လက် ခံ	နား ထောင်	စိတ် ချ	အား ရ
ဝမ်း သာ	ဝမ်း နည်း	စိတ် ညစ်	စိတ် ဆိုး
စိတ် ပျက်	အား ကျ	သဘော ကျ	နား လည်

※イディオムになっても否定辞-は動詞の前につくことに注意。

ကျနော် သူ့ကို သဘော မတူဘူး။ စိတ် မပူပါနဲ့။ ဒါကို စိတ် မကူးဘူးလား။

2. 複合動詞

・ここでいう「複合動詞」とは、2つ(あるいはそれ以上)の動詞が結び付いて1つの動詞となったものを指す。

2.1. 語彙的な複合動詞

・同義あるいは類義の2つの動詞からなる複合が大部分である。

ကိုက်ညီ	နက်နဲ	ကြွယ်ဝ	သတ်မှတ်
ထင်ဟပ်	ထောက်ပံ့	စွဲကပ်	တိုးတက်

・2音節目の頭子音が有声化できる環境にあれば、有声化することが多い。(絶対ではない。上の最後2つの例がそれを示す。有声化するかどうかは動詞ごとに覚えなければならない。)

ကာကွယ်	ကန့်ကွက်	ကျွမ်းကျင်	ထူထပ်
တောင်းပန်	ပြည့်စုံ	လုံခြုံ	အေးချမ်း

※2つの動詞が一体化しているということは、否定辞-が間に割って入らないことからわかる。

ဒီအလုပ် သူနဲ့ မကိုက်ညီဘူး။ သူ့ကို မတောင်းပန်ပါနဲ့။

2.2.文法的な複合

- ・特定のいくつかの動詞は、しばしば複合動詞の2番目の要素として用いられ、文法的な働きをする。
- ・語彙的な複合同様、 θ -は間に入らない。またV^{နိုင်}を除いて、有声化できる環境で有声化する。

V^{တတ်} <習得して得た技能>「…できる」;<習慣・傾向>「…のが常だ、…がちだ」

သူ ဗမာစကား ကောင်းကောင်း ပြောတတ်တယ်။ ကျမအမေ အစပ် မစားတတ်ဘူး။
မောင်မောင် အရမ်း ကြောက်တတ်တယ်။ သူ ခဏခဏ ကျောင်း နောက် ကျတတ်တယ်။

- ・複合動詞V^{တတ်}は、Vがどんな動詞であっても、小辞-^{တယ်}による文で現在時の解釈が優先される。
- Vが状態動詞か動態動詞かにかかわらず、**複合動詞 V^{တတ်} は状態動詞になる。**

※単独の動詞としても、「(習得の結果)できる」の意味で用いられる。 ※ပညာ [ɪh̃³³ʔ³³]

ကျနော် မြန်မာစာ ကောင်းကောင်း မတတ်ပါဘူး။ သူ ပညာ တော်တော် တတ်တယ်။

V^{နိုင်} <選択の余地>「…できる、…てよい」;<実現の可能性>「…(し)得る」

- ・これも、-^{တယ်}による文で現在時の解釈が優先される。

ဒီပန်းခြံထဲမှာ ဓာတ်ပုံ မရိုက်နိုင်ဘူးလား။ ဒီမှာ ရေ များများ သုံးနိုင်တယ်။
ကျနော် သူ့စကား မယုံနိုင်ဘူး။ ငံပြာရည်အနံ့ကို ရှင် ခံနိုင်သလား။
အဲဒါ ဖြစ်နိုင်သလား။ -- လုံးဝ မဖြစ်နိုင်ဘူး။ ဘယ် သိနိုင်မလဲ။

※単独でも「制御できる」の意味で用いられることがある。

V^{ချင်} <主語の願望>「…たい」;<変化の起こる直前状態>「…(し)そうだ」

- ・やはり、-^{တယ်}による文で現在時の解釈が優先される。

မြင်းလှည်း စီးချင်သလား။ မင်းသမီး မဖြစ်ချင်ဘူး။ မြန်မာစာ တတ်ချင်တယ်။
မအိပ်ချင်ဘူးလား။ ကျနော် ဖျားချင်တယ်။ သူ ကင်မရာ လိုချင်တယ်။

※「…が欲しい」という意味で用いる場合には、上の例のように動詞^{လို}-「必要だ」との複合を用いる。

V^{ခိုင်း} <言葉による指図>「(人に)…するよう言う、…(さ)せる」 ※決して有声化しない。注意！

- ・主語(指図する人)と、対象の補語(指図される人=Vする人)を取る。

အမေ ကျနော့ကို စာ မရေးခိုင်းဘူး။ သမီးကို ဈေးမှာ ဆန်နဲ့ ဆီ ဝယ်ခိုင်းတယ်။
ကျောင်းသူကျောင်းသားကို ဖတ်စာ ဖတ်ခိုင်းမယ်။ တက္ကသိုလ်ရှေ့မှာ ကား ရပ်ခိုင်းပါ။

※単独では「命じる」の意で用いられる。

V[ေ] <事態をひきおこす働きかけ>「…なるようにする、…(さ)せる、…してもらう」

- ・主語(働きかける人)と、対象の補語(働きかける対象=Vする人・もの)を取る。
- ・対象の補語が人である場合は、「(強制的でなく)…させる」の意味になりやすい。 ⇔ V^{ခိုင်း}
 - ・対象の補語がものである場合はかなりまれである。その際には、主語-^က対象-ကိုのパターンを取る。

မနက်ဖန် ခင်ဗျာ့ကို အက ကေမယ်။ သားကြီးကို ဒီမိန်းကလေးနဲ့ မတွေ့စေချင်ဘူး။
လေမုန်တိုင်းက လှေကို မြုပ်စေတယ်။(Bernot) ဒီဗုံးက လူအများကြီးကို သေစေနိုင်တယ်။

第6課 動詞の拡張(2) —— 動詞を補助する小辞

動詞の後に、これを補助する働きを持つ様々な小辞を付加することで、動詞句の表す意味内容は、さらに豊富できめの細かいものとなる。この課では、動詞を補助する小辞の基本的なものを学習する。

-လိုက် <思い切り>「…てしまう、…てやる」:(否定のみ)「たまたま…ない」;
(状態動詞+-တと共に)<感嘆>「…だなあ！」

- ・主語が何か動作を行うに当たって、思い切り・決断を要したという意味合いを加える。
- ※「…てしまう」も「…てやる」も様々な意味を表すので、これらの語をビルマ語訳する場合に、何でもかんでも-လိုက်を使って訳さないように。

ပွင့်ပွင့်လင်းလင်း ပြောလိုက်ပါတယ်။ ဒီဆန်အိတ်လဲ သယ်လိုက်ပါ။

- ・時に、同じような意味を表す-ဝစ်と共に用いられる(-ဝစ်が単独で用いられることはあまりない。)

ကြီးကို ဓားနဲ့ ဖြတ်(ဝစ်)လိုက်တယ်။ သတင်းစာတောင်းလည်း စွန့်(ဝစ်)လိုက်ပါ။

- ・否定文で用いられる場合は、上の解釈の他に、「たまたま…ない」と解釈できることがある。

သူ့ဂျပန်နာမည်ကို မသိလိုက်ပါဘူး။ မနေ့က ကျမ ရထားကို မမိလိုက်ဘူး။

- ・状態動詞の後につき、その後に-တがつく場合には、感嘆の表現「…だなあ！」となる。

ဒီအထည် ကောင်းလိုက်တာ။ ဒီဓာတ်ပြား ဝယ်ချင်လိုက်တာ။ cf. ဝယ်လိုက်ချင်တယ်။

-မိ <不注意>「(ついつい)…てしまう」;<無意識>「(ふと)…てしまう」

သူ ကောင်းကောင်း ဝရု မစိုက်ဘူး။ ခဏခဏ ခလုတ်တိုက်မိတယ်။
မြန်မာပြည်အကြောင်းကို လွမ်းမိပါတယ်။

- ・否定の場合にも、「不注意で、ついつい…しなかった」の意味になる点に注意。

မနေ့ည တီဗွီမှာ သတင်းအစီအစဉ် မကြည့်မိဘူး။

-ခဲ့ <現在位置への移動>「…てくる」;<現在までの持続>「…てきた」;<過去>「…た」

- ・もともとは、動作・出来事の後に現在いる場所へ移動してくる、あるいは、動作そのものが現在いる場所に向かって行われる、という意味を表す。

အိမ်မှာ နေ့လယ်စာ မစားခဲ့ဘူးလား။ ဒီနားမှာ ထမင်းဆိုင် မရှိဘူး။
မနက်ဖန် (၈)-နာရီလောက် လာခဲ့မယ်။ -- အမျိုးသမီးနဲ့ အတူတူ လိုက်ခဲ့ပါ။

- ・転じて、過去のある時点から現在まで出来事が持続するという解釈が生じた。

တက္ကသိုလ်ဒုတိယနှစ်က ဗမာစာ သင်ခဲ့ပါတယ်။

- ・さらに、単に過去に出来事が起こった、という解釈も生じた。ただし、文をつくる小辞-တယ်だけで過去の出来事を十分表せるのであり、-ခဲ့はあくまでも二次的なものであることに留意しなければならない。特に口語体の場合、過去の出来事を表す文にことごとく-ခဲ့を加えるのはくどくなりすぎる。

ပထမဦးဆုံး ရိုးမဟိုတယ်မှာ သူနဲ့ တွေ့ခဲ့တယ်။
ရှေးအခါက ဂျပန်လူမျိုး အသား မစားခဲ့ဘူး။

-ဖူး(-ဘူး)と綴られることもある<過去の経験>「かつて…た」「…たことがある」
・「いつ」ということを特定しない、過去のある時に、出来事を体験したことを表す。

တကယ် အိမ်ပြောင် မမြင်ဖူးဘူးလား။ မြန်မာပြည်ကို သွားလိုက်။
ယဉ်ယဉ်အေးလဲ ဒီစာရေးဆရာနဲ့ တွေ့ဖူးပါမယ်။
ကျနော် အဲဒီဆိုင်မှာ ကြာဆံဟင်းခါး စားခဲ့ဖူးတယ်။

-ကြ <主語の複数・個別性> <相互的動作>「…あう」
・複数の主語が、それぞれに動作を行うことを表す。

မောင်မောင်နဲ့ မောင်ဘ ဒီခွေးကို တုတ်နဲ့ ရိုက်ကြတယ်။

・動詞が他動詞の場合には、複数の主語がお互いに動作をしあう、という解釈になる場合がある。

မောင်မောင်နဲ့ မောင်ဘ ရိုက်ကြတယ်။ မောင်မောင် မောင်ဘနဲ့ ရိုက်ကြပါတယ်။
ကျမအစ်ကိုနဲ့ သူ့ညီမ အချင်းချင်း ချစ်ကြတယ်။

-ရ<不可避性>「…ねばならない」「…できる」「…に違いない」(否定で)「…てはいけない」「…できない」
・「…ねばならない」と「…できる」という正反対の解釈ができることに驚くかもしれない。しかし、「…できる」の場合にも、自分自身の力や選択によってでなく、むしろ外力や状況によって避けようがなく「…できる」という意味である。(この点で複合動詞中の要素-နိုင်と異なる。)-ရが本来表すのは出来事の「不可避性」であり、このことを理解せずただ上の訳語を当てはめるだけでは、本当の意味はわからない。

・<不可避性>の意味は、否定でもそのまま生きている。この点は英語のmustに似ている。

ဒီအခန်းထဲမှာ ဖိနပ် ချွတ်ရတယ်။ ဖိနပ် ချွတ်ရမယ်။ ဖိနပ် မချွတ်ရဘူး။
သူတို့ နေ့တိုင်း သစ်ပင် ခုတ်ကြရပါတယ်။
ရွှေတိဂုံဘုရားကို ရန်ကုန်မြစ်ထဲက မြင်ရသလား၊ မမြင်ရဘူးလား။

・「…に違いない」と解釈できるのは、-မယ်(-မ)によって作られる文に限られる。

ဦးစိုးထွန်း သဘော မတူဘူး။ အကြောင်းတခု ရှိရမယ်။
ရှင် ဒီသီချင်းကို ကြားဖူးရမယ်။

-သေး၊-ဦး [qwə] <前の事柄を引き継ぐ>「まだ」「さらに」/ -တော့ <前の事柄と異なる>「もう」「やっ」と
・通常、-သေးが現れる文には-ဦးが現れず、-ဦးが現れる文には-သေးが現れない。
・「まだ」と「もう」の対立が最もわかりやすいのは、否定の言い切り文-ဘူးで用いられる場合である。

အိမ်မှာ ဖုန်း မရှိသေးပါဘူး။ ဒီအခန်းမှာ ရေခဲသေတ္တာ မရှိတော့ပါဘူး။

・肯定の言い切り文-တယ်の中に現れる位置は、否定の場合とは異なる。-ပါとの位置関係に注意。

ကျနော် ဒီအလုပ်ကို ကျေနပ်ပါသေးတယ်။ အခုမှပဲ သူ ကျေနပ်ပါတော့တယ်။

・肯定の言い切り文-မယ်中の「まだ」には、-သေးでなく-ဦးの方を用いる。位置は-တယ်の場合と同じ。

မခင်အိထွန်း သီချင်း ဆိုပါဦးမယ်။ ဦးဘုန်းမြင့် စောင်း တီးပါတော့မယ်။

・要求文では、肯定・否定にかかわらず文末に置かれる。「まだ」には-ဦးの方を用いる。

ထမင်းဟင်း စားပါဦး။ ဘီယာ သောက်ပါတော့။

မစဉ်းစားပါနဲ့ဦး။ မစိုးရိမ်ပါနဲ့တော့။

第7課 数量を表す表現

この課では、特に名詞句の数量を表す表現について学習する。

1. 数名詞

・一桁の数を表す語は、名詞に分類される。

ခြောက် (၆) ရှစ် (၈) | သုံး (၃) လေး (၄) ငါး (၅) ကိုး (၉) |
 နှစ် 'mJpA~jpE_ (၂) ခုနှစ် 'mJwə 'θA~mJwə 'θE_ ※発音例外 (၇) | တစ် 'vA~vE_ (၁)

※疑問の数名詞「何…」は တယ်နှစ် 'dGəjpE_

2. 数量表現

・数名詞だけでもものの数量を表すことはできない。必ず計数・計量の働きを持つ名詞と複合した形で用いられる。こうしてできた数量表現は、**数えられる(計られる)名詞の後に置かれる。**

※計数・計量の名詞と複合する際、တစ်နှစ်およびခုနှစ်の最後の音節は弱化する。တယ်နှစ်は必ず計数・計量の名詞と共に用いられ、最後の音節がつねに弱化する。(弱化については「音声(2)」を参照。)

2.1. 数を数える

・**数名詞+計数名詞**の複合。計数名詞は、数えられるものの種類に応じて決まる。

လူ ခုနှစ်ယောက်၊ သင်္ဘောသီး နှစ်လုံး၊ ခဲတံ တယ်နှစ်ချောင်း၊ ခွေး တ(စ်)ကောင်၊
 အိမ် လေးအိမ်၊ နိုင်ငံ ကိုးနိုင်ငံ၊ သစ်ပင် သုံးပင်၊ ရေခွက် ငါးခွက်၊

2.2. 量を計る

・**数名詞+計量名詞**の複合。計量名詞は、量を計る器や入れ物を表す名詞である。

ကော်ဖီ တ(စ်)ခွက်၊ ဆီ ခြောက်ပုလင်း၊ မီးခြစ် ရှစ်ပူး၊ ဂျုံမှုန့် တယ်နှစ်အိတ်၊

2.3. 数量表現に見られる綴字と発音のずれ

・計数・計量名詞の(最初の子音)は、前に来る数名詞によっては有声化する。特にတစ်の場合に注意。(頭子音の有声化については「文字(2)」を参照。)

計数・計量名詞の最初の子音字が

တၢ၊တၢ၊ဝ(၁၀)		ခၢ၊ခၢ၊ဝ(၅)၊ဝ		それ以外	
ex. -တောင်「(手紙)…通」		ex. -ခု「…つ」		ex. -ယောက်「…人」	
တ(စ်)တောင်	fE' cwə'ʔ	တ(စ်)ခု	vE'mJw0'	တ(စ်)ယောက်	vE' {cwA''
နှစ်တောင်	jpe'ucwə'ʔ	နှစ်ခု	jpe'mJw0'	နှစ်ယောက်	jpe' {cwA''
သုံးတောင်	vθwəθ' cwə'ʔ	သုံးခု	vθwəθ'iw0	သုံးယောက်	vθwəθ' {cwA
လေးတောင်	rgə' cwə'ʔ	လေးခု	rgə'iw0	လေးယောက်	rgə' {cwA
ငါးတောင်	peθ' cwə'ʔ	ငါးခု	peθ'iw0	ငါးယောက်	peθ' {cwA
ခြောက်တောင်	eJcwA'ucwə'ʔ	ခြောက်ခု	eJcwA'mJw0	ခြောက်ယောက်	eJcwA' {cwA
ခုနှစ်တောင်	mJwə'θE'ucwə'ʔ	ခုနှစ်ခု	mJwə'θE'mJw0	ခုနှစ်ယောက်	mJwə'θE' {cwA
ရှစ်တောင်	vθA'ucwə'ʔ	ရှစ်ခု	vθA'mJw0	ရှစ်ယောက်	vθA' {cwA
ကိုးတောင်	mqə' cwə'ʔ	ကိုးခု	mqə'iw0	ကိုးယောက်	mqə' {cwA
(ဆယ်)တောင်	wJ'ʔ cwə'ʔ	ဆယ်ခု	wJ'ʔiw0'	ဆယ်ယောက်	wJ'ʔ {cwA

※表中、太字は子音の有声化が起こる場合、斜体は数名詞に音節の弱化が起こる場合を示す。

3. 位の数

・「位の数」とは、十・百・千など、10のn乗になる数のことである。

-ဆယ် (-0)	-ရာ (-00)	-ထောင် (-000)
-သောင်း (-0000)	-သိန်း (-00000)	-သန်း (-000000)

3.1. 位の数の倍数

・位の数を表す語は、計数・計量名詞とよく似たふるまいをする。

နှစ်ဆယ် | ခြောက်ဆယ် | သုံးဆယ် ခုနစ်ရာ | ရှစ်ရာ | ကိုးရာ

・特別な場合を除いて、「1百」「1千」…の場合にも「1(တစ်)」は省略されない。

တစ်ရာ | တစ်ထောင် | တစ်သောင်း]Tawə:_ | တစ်သိန်း]Tgə:_ | တစ်သန်း]Tə:_

※「十」は例外で、「တစ်နှစ်|သုံး…တစ်ဆယ်」のようにカウントする場合を除いて、通常တစ်を伴わない。

3.2. 位の連続

・後に下の位が続く場合、「十」「百」「千」の声調は下降調に変化し、それを表す声調符号 - が現れる。

သုံးဆယ့် ငါး | နှစ်ရာ လေးဆယ် | ခြောက်ထောင့် ကိုးရာ | တစ်ရာ ရှစ် |
ခြောက်ရာ သုံးဆယ့် ရှစ် | တစ်ထောင့် ကိုးရာ လေးဆယ့် ခုနစ်(ခွန်)

・11~19までの数の中の「十」は、通常တစ်を伴わない。

ဆယ့်တစ် | ဆယ့်နှစ် | ဆယ့်သုံး | ဆယ့်လေး | ဆယ့်ငါး | ဆယ့်ခြောက် | ဆယ့်ခုနစ်(ခွန်) | ဆယ့်ရှစ် | ဆယ့်
ကိုး

3.3. 位の数と数量表現

・一の位が1~9の場合は2.で学習したとおり。一の位が0の場合は、計数・計量名詞を用いない。

လူ နှစ်ဆယ့်ငါးယောက် | လူ နှစ်ဆယ် | ただし လူ ဆယ်ယောက်(前ページの表を参照)

参考:よく使われる計数名詞

-ကောင် 動物一般 သတ္တဝါ | တိရစ္ဆာန် | ဆိတ် | ကြွက် | မြွေ | ငါး | ငှက် | ချိုး | စာ(ကလေး) | ပိုး | အထီး

-ကွက် 土地の区画 မြေ | လယ်(ခင်း) | ယာ(ခင်း) | ရပ်ကွက် | ကိုင်း

-ချောင်း 細長い棒状のもの、紐 ခဲတံ | ထုတ် | ဓား | ဘီး]dɛ:_ | သော့ | အပ် | ဇွန်း | တူ | လက် |
ခြေထောက် | သွား | အရိုး | ချို | ကြိုး

-ချပ် 薄い平らなもの ပန်းကန်ပြား | တံခါး | ဖျာ | ကန့်လန့်ကာ | မှန် | ပန်းချီကား | မြေပုံ | ပေစာ

-စဉ်း-စီး 乗り物一般 ကား | စက်ဘီး | လှည်း | မီးရထား | ယာဉ် | လှေ | သင်္ဘော | လေယာဉ်ပျံ

-ဆူ 仏教関係の敬うべきもの ဘုရား | စေတီ | ပုထိုး | ရုပ်ပွားတော် | ကျမ်း

-ထည် 布地・衣類 အဝတ် | ပိုးထည် | လုံချည် | စောင်

-ပါး 偉い人・神 မင်း | ဘုရင် | နတ်

-ပင် 植物の木・茎 သစ်ပင် | ကျွန်းပင် | ဝါ(ပင်) | ဂျုံ | စပါး | ပဲ | ကောက် | ကြံ | ကြာ | ဆံ(ပင်)

cf. -ရွက် 葉 -ပွင့် 花 -စေ့ 種

-လက် 道具・武器 ထီး | ဓား | သေနတ် | ကတ်ကြေး | တူ | မျက်မှန်

-လုံး 丸いもの・小さいもの・家具・機械・建物 အိုး | ပန်းကန်လုံး | ဦးထုပ် | ခြင်း | ခေါင်းလောင်း |
ခေါင်းအုံး | အသီး | ငှက်ပျော(သီး) | ကျောက်ခဲ | ရတနာ | စိန် | ပတ္တမြား | မြဲ | ကြယ် | တံဆိပ်ခေါင်း | စားပွဲ |
ကုလားထိုင် | သေတ္တာ | စက် | နာရီ | ရေဒီယို | တိုက် | အိမ် | ခေါင်း | ခူး | မျက်စိ | မျက်လုံး | ဝဏန်း | စာ(လုံး) |
စကား(လုံး)

第8課 動詞をとりまく要素(2) --- 格名詞によってつくられる格句

第3課で、動詞の補語として働く「格句」という単位について学んだ。第3課で扱った格句は、いずれも名詞句+格句をつくる小辞からなるものである。これ以外に格句には特殊な名詞によってつくられるものがある。ここでは格句をつくる特殊な名詞(格名詞)の働きについて学習する。

အတွက် この名詞によってつくられる格句の意味は、おおむね以下の3つのどれかにあてはまる。

<動機><目的>「(…の)ため」;ある行為を行う動機となる人・もの・事柄

သူငယ်ချင်းအတွက် ရန်ကုန်မှာ လက်ဆောင် ဝယ်ရတယ်။
ဒီနိုင်ငံအတွက် သူ မနည်း ကြိုးစားတယ်။ လုံခြုံရေးအတွက် ကျနော် တာဝန်ယူမယ်။

<原因>「(…の)ため、せい」;ある事態や感情をひきおこす原因となる人や事柄

သားသမီးတွေအတွက် အမေ စိတ်ပူရတယ်။ ဒီအတွက် ကျနော် အနားမယူနိုင်ဘူး။

<判断の観点>「(…に)って、(…の)ため」;文の表す判断が、誰に当てはまるものなのかを示す

ဒီစာမေးပွဲ သူ့အတွက် မခက်ပါဘူး။ နိုင်ငံခြားသားအတွက် အဲဒါ ထူးဆန်းတယ်။

※အတွက်は動詞တွက်-「計算する」から派生した名詞「算術・計算」であり、その意味でも用いられる。

အတိုင်း 「(…に)浴って、従って、(…の)通り、(…の)まま」

ဒီလမ်းအတိုင်း သွားပါ။ ထုံးစံအတိုင်း ထမင်းဟင်း များများ ကျွေးတယ်။
အဖြစ်အပျက်ကို အမှန်အတိုင်း ပြောပါ့မယ်။ ပစ္စည်းတွေ ဒီအတိုင်း ထားခဲ့မယ်။

※အတိုင်းは動詞တွင်း-「計る、比較する」から派生した名詞。

အပြင် 「(…の)ほか、…以外」

ဒေါ်လှလှမြိုင် မုန့်ဟင်းခါးအပြင် အုန်းနို့ခေါက်ဆွဲလဲ ကောင်းကောင်း ချက်တတ်တယ်။
သူ့အပြင် အင်္ဂလိပ် သုံးယောက် လာတယ်။ ဒီပြင် ဘာအလုပ် ရှိသေးသလဲ။

※局所名詞「外」からの転義。局所名詞アပြင်の後には、格句をつくる小辞-တို-တၢ-မှာが付き得るが、格名詞アပြင်はそれ自体が格句をつくるので、後にさらに格句をつくる小辞が付くことはあり得ない。

လို 「(…の)よう」

သူ အဆိုတော်လို သီချင်း ကောင်းကောင်း ဆိုတယ်။ သူ့လို ဗမာစကား တတ်ချင်တယ်။
ခုလို ခိုင်ခိုင်နဲ့ ရန်မဖြစ်ချင်ဘူး။ ဘယ်လို လုပ်ရမလဲ။ -- ဒီလို လုပ်ပါ။

・民族名-လို「…人(族)のよう」もよく用いられる。特に「話す」「書く」などの動詞と共に用いられる場合、「…人のように(話す、書く)」→「…語で(話す、書く)」の意味となる。

သူ ဗမာလို ဝတ်တတ်တယ်။ ဂျပန်လို မပြောပါနဲ့။ ဗမာလိုပဲ ပြောပါ။

・ဒီလို/အဲဒီလို/ဘယ်လိုなどは、**「呼ぶ」**「話す、いう」などの動詞と共に用いられることがある。 **「呼ぶ」**に対する答えが、-လိုではなく-**「と」**によって**導かれる**点にも注意。

နာမည် ဘယ်လို ခေါ်ပါသလဲ။ -- ခင်မောင်ကြည်လို့ ခေါ်ပါတယ်။

第9課 動詞をとりまく要素(3) —— 従属節

ビルマ語の動詞文の最小構造は**動詞+文をつくる小辞**である。動詞は**イディオム**や**複合**、また**動詞を補助する小辞**によって拡張され豊かな内容を持つ。動詞の前には、小辞や特殊な名詞(**格名詞**)によってつくられる**格句**が置かれ、補語や主語として働く。動詞はその**補語・主語**と共に**動詞句**という単位を形づくる。それゆえ、より正確には動詞文の構造は**動詞句+文をつくる小辞**とすべきであろう。

「動詞句+つくる小辞」によってつくられるのは文だけではない。文に匹敵する意味内容を持ちながら、独立せずより大きな文の構成要素となる単位を「つくる」小辞もある。このような単位をひとまとめに**節**と呼ぶことにしよう。この課で学習するのは、動詞をとりまく(広い意味での)補語として働く、**従属節**である。

1. 基本的な従属節

-လို့ <理由>「…から、ので」

ကျနော် ဒီလို ပြောလို့ ကိုမြတ်ထွန်း စိတ်ချတယ်။ ဆီ များလို့ ဒီဟင်း မကြိုက်ဘူး။
ဒီကောင် ကုသိုလ်ကောင်းမှု လုံးဝ မပြုလို့ ငရဲကျမယ်။ ဘာ ဖြစ်လို့ ကျောင်းပျက်သလဲ။
မနက်ဖန် အတန်း ရှိလို့ ကျမ စာကျက်ရမယ်။

-ပေမယ့် <逆接>「…が、けれども」

ကျမ ဒီလို ပြောပေမယ့် ဦးစိုးထွန်း စိတ်မချဘူး။ လေ တိုက်ပေမယ့် ပူသေးတယ်။
အထူးအမြန်ရထား ဆိုပေမယ့် သိပ် မမြန်ဘူး မဟုတ်လား။
ခရီး ထွက်ချင်ပေမယ့် ပိုက်ဆံ မရှိဘူး။ cf. ဒါပေမယ့် မိဘကို အကူအညီမတောင်းဘူး။

-ရင် <仮定・条件>「…たら」

※主文が-တယ်で終わる場合でも、その内容は<過去の出来事>ではなく<不変の出来事>として解釈される。ゆえに、主文末を「…た」と訳すことはできない。

ဒေါ်ကြည်မြင့် ဒီလို ပြောရင် ကျနော် စိတ်ချတယ်။
မနက်ဖန် မိုးရွာရင် ဗိုလ်ချုပ်ဈေး မသွားဘူး။ မြန်မာစာ တတ်ချင်ရင် များများ ဖတ်။

※後に-လဲ「も」を伴うと、<仮定の逆接>「…ても」を表す

မငွေငွေ ဒီလို ပြောရင်လဲ ရှင် စိတ်မချဘူးလား။ သူ မလာရင်လဲ ကိစ္စ မရှိဘူး။

-ပြီး <出来事の継起>「…て(から)」

မနေ့က ကျနော် ကိုယ်တိုင် ထမင်း ချက်ပြီး စားတယ်။
ဆန်တစ်ပြည်လောက် ဝယ်ပြီး (၈)-ကားနဲ့ ပြန်လာတယ်။
သူ ဘီယာ မှာပြီး ကျမ အဖျော်ရည် မှာတယ်။ ဒီနိုင်ငံရာသီဥတု အေးပြီး ခြောက်တယ်။

※動詞ပြီး-「終わる」と関連があることは明白。

-အောင် <目標>「(…になる)ように」

သူ နားလည်အောင် ကျနော် ပြောပြမယ်။ ထမင်း ဝအောင် စားပါ။
ဝမ်း မကိုက်အောင် ရေစိမ်း မသောက်ပါနဲ့။
ချက်ချင်း ခရီး ထွက်နိုင်အောင် စီစဉ်ထားတယ်။

-ဝဲ(-ဘဲ) (必ず否定の動詞と共に)〈付随しない出来事〉「…ずに、…ないで」

မိုးရာသီမှာ ထီး မပါပဲ အပြင် မထွက်ပါနဲ့။ စာအုပ် မကြည့်ပဲ ဒီမေးခွန်း ဖြေခိုင်းတယ်။
ဘယ်သူ့ကိုမှ အကြောင်းမကြားပဲ နိုင်ငံခြား သွားတယ်။
နေတိုင်း ကော်ဖီ မသောက်ပဲ မနေနိုင်ဘူး။

2.-လို့節を含む慣用表現

※いくつかの動詞は、-လို့による従属節を取って慣用的な言い回しをつくる。これらに共通する特徴は、-လို့による従属節が〈理由〉の意味に解釈されないという点である。

▪-လို့ ရ- 〈許可・容認〉「…してよい、かまわない」 ※否定は「…してはいけない」という意味になる。

ဒီအခန်းထဲမှာ ဖိနပ် စီးလို့ ရသလား။ ဒါကို မပြောလို့ မရဘူး။

▪-လို့ ဖြစ်- 〈実現〉「…することができる、できた」 ※否定は「実現しなかった」という意味になる。

ကျနော် တစ်ယောက်တည်း သွားလို့ ဖြစ်တယ်။ တညလုံး အိပ်လို့ မဖြစ်ဘူး။

▪-လို့ ကောင်း- 「…するのによい」※実際には様々に意識が可能だし、また意識しなければならない。

အဆောင်မှာ နေလို့ ထိုင်လို့ ကောင်းတယ်။ ဒီခေါက်ဆွဲကြော် စားလို့ ကောင်းတယ်။

▪-လို့ ပြီး- 「…し終わる」 ※否定で用いられることが多い

ကျမ ဒီဝတ္ထု ဖတ်လို့ မပြီးသေးဘူး။

3.慣用的に用いられる-တော့節

・-တော့も従属節をつくる小辞の1つである。-တော့の働き一般について説明するのは、現段階ではかなり難しいので、あえて触れない。ただ、特定の動詞などと-တော့の組み合わせの中には非常によく使われるものがあり、覚えておくに役立つ。

▪ပြီးတော့ 「それから」

ကျမတို့ ရွှေတိဂုံဘုရားကို သွားဖူးတယ်။ ပြီးတော့ တရုတ်တန်းမှာ ညစာ စားတယ်။

▪ဘယ်တော့ 「いつ」 ※前につくものが動詞でない点で例外的。必ず未来の時を表す。

မြန်မာပြည်ကို ဘယ်တော့ လာမလဲ။ cf. မြန်မာပြည်ကို ဘယ်တုန်းက လာသလဲ။

▪ဒီတော့၊အဲဒီတော့ 「すると、その時」 ※これまた、前につくものは動詞でない。

လမ်းပေါ်မှာ ကလေးတယောက်နဲ့ တွေ့တယ်။ ဒီတော့ သူ ဂျပန်လို နှုတ်ဆက်တယ်။

文をつくる小辞-ပြီး

・-ပြီးによってつくられる文は、話し手が直接体験した出来事を、すかさず口に出す場合に用いられる。

ကား လာပြီး။ ကောင်းပါပြီး။ တော်ပြီး။ ဟုတ်ပြီး။

・また、時刻・年齢・距離などの増加の途中経過を表す場合にも用いられる。

(၁၀)-နာရီ ထိုးပြီး။ (၁၁)-နာရီခွဲ ရှိပြီး။ ကျမ အသက် (၁၉)-နှစ် ရှိပြီး။
သီချင်း ဘယ်နှစ်ပုဒ် ရပြီလဲ။(Okell) အခန်း(၉)-အထိ ပြီးပြီ။ cf. အဖေ အသက်ကြီးပြီ။

第10課 動詞の連続(1) — 基本型と補助動詞を含む連続

ビルマ語には、複数の動詞が連続して現れる例が非常に多く見られる。この課と次の課では、このような動詞の連続について学習する。

第5課で学習した複合動詞とどう違うのか？複合動詞は、複数の動詞が複合して1つの動詞になったものである。それに対して動詞連続では、動詞が各々の独立性を保ったまま、ただ連続しているのである。この違いは、主に否定辞 ω -の入る位置の違いや、有声化の有無に反映される。

1. 動詞連続の基本型 — 継起する出来事を表す場合

・動詞連続の最も典型的な形は、連続して起こる動作・出来事を表す動詞をそのまま並べる場合である。

မနေ့က ကိုယ်တိုင် ထမင်း ချက်စားသလား။ သူငယ်ချင်းတွေကို ဖိတ်ကျွေးမယ်။
ကျမ ရွှေပုဂ္ဂန်မှာ မုန့် ဝယ်လာတယ်။ မြို့ထဲကို သွားမယ် ဆိုရင် သူ့ကိုလဲ ခေါ်သွားပါ။

・この種の連続を含む文は、-ပြီးによってつくられる従属節を含む文とほぼ同じ意味を表すといえる。

ချက်ပြီး စားသလား။ ဖိတ်ပြီး ကျွေးမယ်။ ဝယ်ပြီး လာတယ်။ ခေါ်ပြီး သွားပါ။

※ただし、-ပြီး節が主動詞と隣接していない場合は、動詞連続によって言い換えることができない。

・動詞連続全体を否定にする場合、 ω -は最後の動詞に前接される。

ချက်မစားဘူးလား။ ဖိတ်မကျွေးဘူး။ ဝယ်မလာဘူး။ ခေါ်မသွားပါနဲ့။

2. 動詞連続の特殊な場合: 主動詞+補助動詞

・動詞連続の後の動詞が、もともと持っていた具体的な意味を失い、前の動詞を補助するという文法的な働きを持つようになったものを、**補助動詞**と呼ぶ。日本語にも類似した形式があるので、日本人にはなじみやすいが、それだけに、日本語と異なる用法を持つものについては、十分に意識する必要がある。

・補助動詞は、その意味的な働きによって大きく2種類に分かれる。いずれの働きを知るためにも、主動詞の性質(状態vs.動態:動態の場合さらに、意志的な動作vs.無意志的な変化)が重要な意味を持つ。

2.1. 動作を行う際の様々な心づもりを表す補助動詞

・動作を行う人間が、その動作をどのような心づもりをもって行うかを表すものであるから、当然、状態動詞にはつかないし、動態動詞の中でも意志的に行われる動作を表すものにしかつかない。

-ကြည့် 「…てみる」 ・ためしに動作を行う、という意味

※主動詞としての意味も「見る」であるから、日本語によく似ていると言える。

ထမင်းကြော် နည်းနည်း မြည်းကြည့်တယ်။ ဒီစကားလုံးကို အသံ ထွက်ကြည့်ပါဦး။

※連続V-ကြည့်の中の-ကြည့်が常にこの意味で用いられるわけではない。もともとの「見る」の意味で用いられることも当然ある。このことは、以下のどの補助動詞についてもあてはまることである。

cf. ရန်ကုန်တိရစ္ဆာန်ဥယျာဉ်ကို ဝင်ကြည့်တယ်။

-ထား 「…ておく」「…てある」 ・後のための準備として動作を行う、という意味

※主動詞としても「置く」。「…てある」と訳した方がよい場合もある。

ကျနော် ကွန်ပျူတာသင်တန်းမှာ အခြေခံ သင်ထားတယ်။

သူ ပိုက်ဆံ စုမထားပဲ အကုန်လုံး သုံးလိုက်မိတယ်။ နံရံမှာ မြန်မာမြေပုံ ကပ်ထားတယ်။

cf. စားပွဲပေါ်မှာ စာအိတ်နဲ့ တံဆိပ်ခေါင်း ထုတ်ထားတယ်။

-ဝေး 「…てやる」「…てくれる」 ・他者に利益を与えるために動作を行う、という意味
※主動詞として「与える」。

ကမ္ဘာအေးဘုရားရှေ့မှာ ဓာတ်ပုံ ရိုက်ပေးမယ်။
နိုင်ငံခြားဘာသာတက္ကသိုလ် ဝင်းထဲမှာ ကား ရပ်ပေးပါ။

cf. သမီး ဒီကစားစရာ လိုချင်ရင် ဖေဖေ ဝယ်ပေးမယ်။

2.2. 時間的な種々の相を表す補助動詞

・主動詞が意志的な動作を表す動詞であるか、それ以外の動詞であるかによって、表す意味が異なる。

-နေ ※主動詞として「住む、居る、そのままにいる」。

・動作を表す動詞と共に用いられる場合には、動作が進行していることを表す：「…ている」。

သူ စကား တစ်ခွန်းမှ မပြောပဲ ထမင်း စားနေတယ်။ ကာတွန်းစာအုပ်ဘဲ ဖတ်မနေနဲ့။

・状態や無意志的な変化を表す動詞、また動作動詞であっても結果を残す動作を表す動詞と共に用いられる場合には、変化の結果が持続することを表す：「…ている」;(状態動詞の場合)「…になっている」

စားပွဲအောက်မှာ ခဲတံတစ်ချောင်း ကျနေတယ်။ ဒီအကြော်ဆိုင် ဖွင့်နေပြီ။
အခု ကချင်ပြည်နယ်မှာ အေးနေပြီ။ မင်း ဗမာစကား ကောင်းကောင်း ပြောတတ်နေပြီ။

-လာ ※主動詞として「来る」

・動作動詞と共に用いられる場合には、現在に至るまで動作が持続していることを表す：「…てきた」。

※文を作る小辞は-တယ်を用いる。また、動詞は比較的長期にわたる動作を表すものである。

ဒီဆရာမ ပြင်သစ်စာတစ်ခုပဲ သူတေသန လုပ်လာတယ်။

・変化動詞・状態動詞と共に用いられる場合には、変化が進行中であることを表す：「…(になっ)てくる」。

ထမင်း ကျက်လာပြီ။ နောက် (၁၅)-မိနစ်လောက် ကြာရင် စားလို့ ရတယ်။

အခု မန္တလေးတိုင်းမှာ အေးလာပြီ။ ငါ ဗမာစကား နည်းနည်း ပြောတတ်လာပြီလား။

-သွား ※主動詞として「行く」

・動作動詞と共に用いられる場合には、現在から未来へと動作が持続することを表す：「…ていく」。

※文をつくる小辞は-မယ်を用いる。この場合も、動詞は比較的長期にわたる動作を表すものである。

ကျနော် အထဲ ပြောက်အောင် ကြိုးစားသွားမယ်။

・変化動詞・状態動詞と共に用いられる場合には、変化が完了することを表す：「…(になっ)てしまう」。

ငါ့မီးဖို ပျက်သွားတယ်။

ဟင်းချို အေးသွားပြီ။ စားလို့ မကောင်းတော့ဘူး။

ရန်ကုန်မှာ နှစ်နှစ် နေရင် ဗမာလူမျိုးအစစ်လို ပြောတတ်သွားမယ်။

-ပြီး ※主動詞として「終わる」

・動作動詞とのみ用いられ、動作が完了することを表す：「…てしまう、し終わる」。

ထမင်း စားပြီးပြီလား။ -- ဟုတ်ကဲ့၊ စားပြီးပြီ၊ စားလို့ မပြီးသေးဘူး။

မအေးအေးခင် ဒီလမ်းညွှန်စာအုပ် ဖတ်ပြီးတော့မယ်။

※補助動詞としての-ပြီးは、文をつくる小辞-ပြီと共に用いることが圧倒的に多い。-တယ်は用いられない。

第11課 動詞の連続(2) —— 副詞的動詞を含む連続

1. 「副詞的」とは

- ・このテキストでは、ビルマ語の具体的な内容を持つ語の類として、動詞類と名詞類の2種類しか考えない。ゆえに、独立した「副詞類」という語類は認めない。
- ・だからと言って、他の言語の「副詞」が担う働き — 単独で動詞や形容詞(ビルマ語にはないけれども)が表す出来事・状態の様態、程度、話し手の感想などを表し、動詞・形容詞を修飾する — を担う語がビルマ語にないわけではない。ただビルマ語では、名詞・動詞の一部がこの働きを担う、というだけのことである。この働きを示す適切で簡潔な用語を見つけれないので、(不本意ながら)引き続き「副詞的」の語を用いる。
- ・「副詞的」な動詞について学習する前に、「副詞的」な名詞の例を、既出のものを中心に見ておこう。

程度や数量を表すもの: အရမ်း:တအား:အင်မတန်「非常に」 မနည်း:「少なからず」 လုံးဝ「全然、全く(…ない)」 နည်းနည်း:「少し」 များများ:「たくさん」 အကုန်:အကုန်လုံး:「全部」

時間の長さや頻度を表すもの: ချက်ချင်း:「ただちに、すぐ」 ခဏ「少しの間」 ခဏခဏ「しばしば」 တစ်တစ်လေ「時々」 အမြဲ「いつも」

動作の様態を表すもの: ကောင်းကောင်း:「良く」 တော်တော်「かなり」 ဆက်ဆက်「間違いなく、ちゃんと」 ကိုယ်တိုင်「自分で」 အချင်းချင်း:「互いに」 အသီးသီး:「それぞれ」 တယောက်တည်း:「ひとりで」

話し手の感想・注釈を表すもの: တကယ်「本当に」

※このうちあるものは単純語であり、あるものは複合語である。またあるものは動詞からの派生によってできた名詞である。特に動作の様態を表す名詞には、動詞からの派生や複合によるものが多い。

2. 動詞連続の特殊な場合 2: 副詞的動詞 + 主動詞

- ・動詞連続の前の動詞が、もともと持っていた具体的な意味を失い、後の動詞を修飾するという働きを持つようになったものを、**副詞的動詞**と呼ぶ。
- ・副詞的動詞にも様々な働きをするものがあるが、ここではそのうち、比較・程度を表すものと、時間的な種々の相を表すものの2種類に焦点を当てて学習する。

2.1. 比較・程度を表す副詞的動詞

ဝို-လှာ-「より…、さらに…」 ・主語が他のものとの比較において上回ることを表す。

※主動詞としては、ဝိုは「余る、余っている」、လှာは「超える、しのぐ」。

မော်လမြိုင်မြို့ ပဲခူးမြို့ထက် ဝိုကြီးတယ်။ ဒီလူ သူများထက် ဝိုက်ဆံ ဝိုရတယ်။
ခရီးသည်အတွက် ဘတ်စကား စီးလို့ မကောင်းပေမယ့် မြို့ပတ်ရထားက ဝိုဆိုတယ်။
ဒီစာအုပ် ဟိုစာအုပ်ထက် သာလွယ်သေးတယ်။ သူက ငါ့ထက် သာတောင်းတတ်သေးတယ်။

※比較の意味そのものは格名詞-ထက်だけでも表せるので、-ထက်による格句があればဝို-လှာ-は必ずしも必要ない。ただ、-ထက်による格句が省略されていてもဝို-လှာ-があれば比較の意味を表せる。

・ここで挙げたものに限らず、副詞的動詞を含む連続は、-ဝို-による従属節を含む文に書き換えることができる。(前課で書き忘れたが、補助動詞の場合には、同様の書き換えは出来ない。)

ဝိုပြီး ကြီးတယ်။ သာပြီး တောင်းတတ်သေးတယ်။

- ・副詞的動詞を含む動詞連続でも、否定辞のမ-は最後の動詞、つまり主動詞に前接される。

ဒီထက် ဝိုမရဘူးလား။(Okell)

သိပ်-တယ်-「とても…、非常に…」(否定で)「あまり、それほど(…ではない)」

ဒီကောင် သိပ်စိုးရိမ်တတ်တယ်။ ဒီကိစ္စ သူ့အတွက် တယ်အရေးမကြီးဘူး။

※どちらも対応する主動詞を持たない。それでも副詞的動詞に含めるのは、下のような形があるから。

cf. သိပ်ပြီး စိုးရိမ်တတ်တယ်။ တယ်ပြီး အရေးမကြီးဘူး။

2.2. 時間的な種々の相を表すもの

ဆက်- 「続けて…する、引き続き…する」 ※主動詞として「続く、つながる」「続ける、つなげる」

ဂျပန်စာသင်တန်း ဆက်တက်လို့ ရသလား။ ဆွေးဟောင်သံ ဆက်ကြားနေရတယ်။

ရှင် ခဏခဏ နောက်လို့ ကျမ ဆက်မပြောချင်တော့ဘူး။

ဒီငှက်ကလေး အတောင်မှာ ဒဏ်ရာ ရပြီး ဆက်မပျံနိုင်တော့ဘူး။

စ- 「初めて…する、…し始める」 ※主動詞として「始まる」

ဒီနေ့ ကုလားရုပ်ရှင်ကားအသစ် စပြမယ်။ ခင်ဗျားတို့က စပြောတာပဲ။(大野)

ဒီလို အဝတ်အစားမျိုး ကိုလိုနီခေတ်က စပေါ်တယ်။ ဆိပ်ကမ်းက သင်္ဘော စကွာပြီ။

cf. ဒီနေ့က စပြီး ကုလားရုပ်ရှင်ကားအသစ် ပြမယ်။

ထပ်- 「再び…する」 ※主動詞として「重ねる」

မင်းအသံထွက် နည်းနည်း ဝဲတယ်။ ထပ်ပြောပါဦး။ ဟင်းချို ထပ်ထည့်ပေးမလား။

ရန်ကုန်ကို ရောက်ရင် မြန်မာအဘိဓာန်တစ်စုံ ထပ်မှာထားပါ။

ဆရာအိမ်လိပ်စာနဲ့ ဖုန်းနံပါတ်ကို ထပ်မေးကြည့်ရမယ်။

2.3. ပြန်- ※主動詞として「帰る」「返す」「ひっくりかえす」など様々な意味がある。

・再度・反復 「再び…する」(=ထပ်-)

ဒီဇာတ်ပုံတွေ ကြည့်ရင် မန္တလေး-ပုဂံ ခရီးအကြောင်းကို ပြန်သတိရတယ်။

ကိုးရီးယားစာသင်တန်း ပြန်တက်ချင်တယ်။

・反応・反作用

မြင်းလှည်းနဲ့ စစ်ကိုင်းမြို့ထဲကို တစ်ပတ် ပတ်ပြီး (၅)-နာရီမှာ ပြန်လာတယ်။

ဗုဒ္ဓဟူးနေ့မှာ မကြည်ကြည်ကို ဒီထမင်းချိုင့် ပြန်ပေးရမယ်။

動詞の重複によってできた派生名詞

・動詞から名詞を派生させる手段として、前接辞အ-と同じくらいよく用いられるのは、動詞そのものを重複させるという手段である。重複の際、後の音節の初頭子音は、有声化できる場合には必ず有声化する。

ကောင်းကောင်း၊ ကြီးကြီး၊ တော်တော်၊ မြန်မြန်၊ နုနုည့်ည့်၊ အကွက်ကျကျ

・重複による派生名詞は、副詞的名詞として使われることが多いが、名詞を修飾するのにも用いられる。

ကော်ဖီချိုချို သောက်ချင်တယ်။ မာလကာသီးမှည့်မှည့် ဝယ်ခဲ့တယ်။ စာအုပ်သေးသေးလေး ပေးမယ်။

မိန်းကလေးချောချောလေးကို သဘောကျတယ်။ ရထားကြပ်ကြပ်ကြီးကို မစီးချင်ဘူး။

ဒီမိန်းကလေး သိပ်ချောတယ်။ → သိပ်ချောတဲ့ မိန်းကလေး
 ဆရာမ မနက်ဖန် လာပါမယ်။ → မနက်ဖန် လာမယ့် ဆရာမ
 ဒီလူ စာ မတတ်ဘူး။ → စာ မတတ်တဲ့ လူ
 ခွေးက ကြောင်ကို ကိုက်တယ်။ → ခွေးက ကိုက်တဲ့ ကြောင်၊ကြောင်ကို ကိုက်တဲ့ ခွေး
 ခင်ဗျား တည်းမယ့် ဟိုတယ်၊ သူ ရောက်ဖူးတဲ့ နေရာ၊ ကျမ လာနိုင်တဲ့ အချိန်၊
 ညီလေး ပြန်လာမယ့် သတင်း ကြားရတယ်။ သူ မလာတဲ့ အကြောင်း ပြောပြမယ်။
 "တင်တင်အေး" ဆိုတဲ့ မုန့်ဟင်းခါးဆိုင်နာမည် ကြားဖူးသလား။

3. 名詞を修飾する格句

・小辞や(格)名詞によってつくられる格句のあるものは、名詞の修飾要素として用いられる。ここではそのうち、特に使用頻度の高いものだけを挙げる。

N-က <出所・所属>「…(から)の」;<存在の位置>「…の、…にいる・ある」

※動詞の補語としてのN-က(<起点>)およびN-မှာ(<位置>)の両方に対応すると考えてよい。

သူ အိန္ဒိယပြည်က ပညာတော်သင်ပါ။ ကျနော် ရန်ကုန်တက္ကသိုလ်က ကထိကပါ။
 လမ်းပေါ်က ကလေးတစ်ယောက် ကျမကို ကြည့်ပြီး ပြုံးတယ်။
 အပေါ်ထပ်က ကျောင်းသား အမြဲတမ်း ဂီတာ တီးနေတယ်။

N-အတွက် <動機・目的>「…のための」 ※動詞の補語として働く場合よりも、表す意味が狭い。

ညီမလေးအတွက် လက်ဆောင်ကို အိမ်မှာ ထားခဲ့မိတယ်။
 အောက်ထပ်အတွက် မီးသီး ဘယ်ဆိုင်မှာ ဝယ်လို့ ရသလဲ။

N-လို 「…のような」

သူ့လို လူမျိုးနဲ့ ရန်မဖြစ်ချင်ဘူး။ ဒီလို အဖြစ်အပျက် တခါမှ မကြုံဖူးဘူး။

4. 名詞句の等位接続と列挙

4.1. 等位接続

AND: 小辞-နဲ့ を用いる。

ဆားနဲ့ သကြားကို ရောမိတယ်။ မြန်မာစာ၊ အင်္ဂလိပ်စာနဲ့ ဂျပန်စာကို သင်ပေးတယ်။

OR: သို့မဟုတ် を用いる。

ကျမ သို့မဟုတ် မောင်လေး လာကြိုမယ်။ တနင်္လာနေ့ သို့မဟုတ် အင်္ဂါနေ့မှာ လာပါ။

4.2. 列挙

-ရယ်၊-ရော နှင့် を用いる。

ကရင်စာရယ်၊ မွန်စာရယ်၊ ရှမ်းစာရယ် အားလုံး မြန်မာစာနဲ့ ဆင်တယ်။
 အဖေရော၊ အမေရော၊ ဦးလေးရော အသီးသီး ဂုဏ်ပြုစကား ပြောတယ်။

第13課 話し手のモードの表示

会話とは、話し手～聞き手間の相互作用である。話し手は、聞き手に対して物事を述べ、質問し、あるいは聞き手が行動を起こすことを要求したり、何事かを容認してくれるよう迫る。聞き手の社会的立場や人間関係によって、丁寧に、あるいはぞんざいにもものを言う。語調を強めることもあるし、情報の出所をそれとなく示したりもする。これら話し手が示す様々な態度をひっくるめて、ここでは**話し手のモード**と呼ぶ。

本課では、文を作る小辞の前後に現れ、話し手のモードを表す小辞について学習する。

1. これまでに学習したモードを表す小辞

1.1. 疑問

・ 二者択一疑問文(yes-no疑問文): -လာ:

ဒီသီချင်း ခင်မောင်တိုးသီချင်းလား။ ဆိတ်သားဟင်း ကြိုက်သလား။ မကြိုက်ဘူးလား။

・ 疑問語句を含む疑問文(wh-疑問文): -လဲ

ဘယ်ဟာ ပိုကောင်းသလဲ။ ခင်ဗျား ဘယ်လို နေသလဲ။ ဘယ်နှစ်နာရီ ရှိပြီလဲ။
 ဘယ်တုန်းက ရောက်ဖူးသလဲ။ ဘယ်တော့ စမလဲ။ ဘာ ဖြစ်လို့ မီး မလာသလဲ။
 ဒီကျောင်းသား ဘယ်လောက် တော်သလဲ။ ဘယ် ဟုတ်မလဲ။

1.2. 丁寧: -ဝါ

・ 名詞文と動詞文とで、現れる位置が異なる: 名詞文では末尾位置、動詞文では文をつくる小辞の前。

သူ အင်္ဂလိပ်ဆရာဝါ။ ကြိုးစားပါတယ်။ မကြိုးစားပါဘူး။ ကြိုးစားပါ ဝါ။ မကြိုးစားပါနဲ့။

※動詞を補助する小辞

	မလာ	သေး	ဝါ	ဘူး	မလာ	တော့	ဝါ	ဘူး
-သေး၊-အုံး၊-တော့と-ဝါとの	လာ	ဝါ	သေး	တယ်	လာ	ဝါ	တော့	တယ်
位置関係は、文をつくる小辞の種	လာ	ဝါ	ဦး	မယ်	လာ	ဝါ	တော့	မယ်
類によって変化する、という点	မလာ	ဝါ	နဲ့	ဦး	မလာ	ဝါ	နဲ့	တော့
をもう一度確認すること。	လာ	ဝါ	ဝါ	ဦး	လာ	ဝါ	ဝါ	တော့

2. 要求と祈願のモード

・ 典型的な要求文は、何らかの動作を行ってくれるよう(否定の場合には、動作を行わないよう)、聞き手(「あなた」)に対して働きかけるものである。以下の例で、**否定の要求文をつくる小辞が-နဲ့**であるのに対し、**肯定の要求文をつくる小辞は-ဝါ**である、ということを改めて確認してほしい。(「-ဝါ」は「目に見える要素が何も現れない」ことを示すための抽象的な記号である。間違っても実際に書かないように。)

ရှင် ဗမာလို ပြောပါ ဝါ။ ဂျပန်လို မပြောပါနဲ့။

小辞-ဝါ-နဲ့によってつくられる文の中には、典型的なものとは違う種類の要求を表す文がある。また、単に話し手の祈願を表す文もある。それらは、-ဝါ-နဲ့の前にモードを表す小辞を加えることで表される。

2.1. -ဝါ+-ရဝေ <話し手による動作の容認要求>

<話し手(「私」)が動作を行うことを容認してくれるよう、聞き手に対して働きかける>というモードを表す。必ず-ဝါ+-ရဝေをセットにして用いる。**文の主語となるのは、動作を行う人、つまり話し手である。**

ကျနော် တစ်ခု ပြောပါရဝေ။ သမီးတို့ အဝတ် လျှော်ပါရဝေ။
 ဒီလောက် ခက်တဲ့ အင်္ဂလိပ်စာအုပ်ကို မဖတ်ပါရဝေနဲ့။

※この小辞を含む文を和訳すると「(私に)Vさせてください」となる。しかしビルマ語では**話し手(「私」)は主語であるから、絶対にこれに-ကိုをつけてはならない。**つまり、次のような文は正しくない。

第14課 動詞をとりまく要素(4) —— 引用文と名詞化節

動詞をとりまく要素の最後は、話したり考えたりする内容を表す文(引用文)と、文の主語や対象の補語として用いられる名詞化された節(名詞化節)である。いずれもかなり文に近い内容を備えた単位であり、これらを用いることでかなり複雑な事柄の表現が可能になる。あわせて、厳密には名詞化節でないが、これと同等の内容を表す-ဝှံによる複合名詞もここで学ぶ。

1. 引用文

1.1. 引用される要素を表す小辞-လို့ 「…と」

・-လို့を伴う句は、もっぱら「名付けの行為」にかかわる動詞とともに用いられる。

ဒါ ဗမာလို့ ဘယ်လို့ ခေါ်သလဲ။ -- “ဖိနပ်”လို့ ခေါ်တယ်။

အဖေက ပထမသမီးကို ယဉ်ယဉ်အေးလို့ မှည့်တယ်။

ဒီတရုတ်ကျောင်းသားကို “ပန်ကာ”လို့ နာမည် ပေးတယ်။

1.2. -လို့によって導かれる引用文

・これまで学習した全てのタイプの文は、-လို့を伴うことで引用文として用いることができる。

・引用文の表す内容には、大きく分けて次の2種類がある。

(1)口に出して話す内容 伝達・約束・要求・質問など、「言う」という行為にかかわる動詞とともに用いる。

ဆရာ ကျောင်းသူကျောင်းသားတွေကို “ဒီနေ့ အတန်း မရှိဘူး”လို့ ပြောတယ်။

ဆိုင်ရှင်က ဦးလေးကို စက်ဘီး ချက်ချင်း ပြင်ပေးမယ်လို့ ကတိပေးတယ်။

ကိုတင်ခိုင် ကျနော့်ကို ရန်ကုန်ကို ဘယ်တော့ ပြန်ရောက်မလဲလို့ မေးတယ်။

ဆရာဝန်က သူ့ကို အသီး များများ စားပါလို့ မှာတယ်။

ကျမ မနေ့က ဒီဟိုတယ်မှာ မင်္ဂလာဆောင်ပွဲ ကျင်းပတယ်လို့ ကြားတယ်။

(2)頭の中で考える内容 「思考する」という行為にかかわる動詞とともに用いる。

မောင်မောင် စာမေးပွဲ အောင်မယ်လို့ ကျနော် ထင်တယ်။

ဆရာ ဒီဆေး အရမ်း စွမ်းတယ်လို့ ယူဆတယ်။

ကျနော်က သူ (၁၉)-လမ်း သွားရင် စားနိုင်တဲ့ အစားအစာ ရှိမလားလို့ စဉ်းစားတယ်။

ကိုဖြိုးဝေ ဂျပန်ကင်မရာ ဂျာမန်ကင်မရာထက် ပိုကောင်းတယ်လို့ ယုံတယ်။

ကျနော် မြစ်ကြီးနားမှာ နှစ်ပတ်ကျော် နေမယ်လို့ ရည်ရွယ်တယ်။

※動詞ထင်-の直前に引用文が来る場合、小辞-လို့は現れない方が普通である。

ကျနော် မောင်မောင် စာမေးပွဲ အောင်မယ် ထင်တယ်။

2. 名詞化節

・名詞化された節「…すること」「…するの」は、**動詞句+名詞化節をつくる小辞-တာ-မှာ**からなる。

名詞化節をつくる小辞	- <u>တာ</u>	…	文をつくる小辞	- <u>တယ်</u>	に対応
	- <u>မှာ</u>	…		- <u>မယ်</u>	に対応

・否定文を名詞化節にする際には、もとの文の表す事柄の現実/非現実に応じて-တာ-မှာを使い分ける。

・疑問文や要求文に対応する名詞化節はない。同じことは名詞修飾節についても当てはまる。

2.1. 対象の補語として ・ほとんどの場合、真実の事柄を表す。

ကိုကျော်စိန်က မယဉ်ယဉ်အေး မနက်ဖန် ဂျပန်ပြည်ကို ပြန်သွားမှာ သိတယ်။
ခင်ဗျား ဗမာစကား ကောင်းကောင်း မတတ်သေးတာကို သူ နားလည်တယ်။
ခင်ဗျား သူ့ကို ပို့စကတ် ပို့ရမှာ မေ့နေတယ်။ ဟိုမှာ ကားတိုက်တာ(ကို) မြင်ရတယ်။
(ကျမ)(ရှင်နဲ့) တွေ့ရတာ(ကို) ဝမ်းသာပါတယ်။
သမီးတို့ အဖေ ဆူမှာ ကြောက်တယ်။ သူ မြန်မာပြည် မသွားနိုင်မှာ စိုးရိမ်နေတယ်။
ကြယ်များများ ကြွတာကို တိဗ္ဗိမှာ အကြောင်းကြားတယ်။

2.2. 主語として

ငါ သူတို့နဲ့ ညစာ စားတာ များတယ်။ မြန်မာအဘိဓာန် စစ်ရတာ မလွယ်ဘူး။
ရှင် ဒီကောင်နဲ့ ရန်ဖြစ်တာ မကောင်းဘူး။ မောင်အေး မလာတာ သေချာတယ်။
မောင်အေး မလာမှာ သေချာတယ်။ သူ ချက်ချင်း သဘောတူမှာ မဟုတ်ဘူး။

2.3. その他(何だかよくわからないもの)

သူ နိုင်ငံခြား မရောက်တာ ကြာပြီ။ ကျမ မြန်မာစာ လေ့လာတာ (၅)-နှစ်လောက် ရှိပြီ။

3.-တို့による複合名詞

- ・-တို့(もともとはအတို့)は、動詞句を取って、名詞化節なみの内容を持つ複合名詞をつくる要素である。
- ・-တို့による複合名詞には様々な用法があるが、その全てに共通する意味的性質は、次の2点である。
 - (1)動詞句の表す出来事がまだ実現していない。
 - (2)動詞句の表す出来事が実現することを、誰か(主語か話し手のどちらか)が望んでいる。

3.1. 目的の補語として 「…するために」

သူ ကာရာအိုကေမှာ သီချင်း ဆိုဖို့ တစ်ပုဒ်လောက် လေ့ကျင့်နေတယ်။

3.2. 対象の補語として1 「…するよう」

ဆရာဝန်က သူ့ကို အသီး များများ စားဖို့ မှာတယ်။
ဆရာက ဒီကျောင်းသားကို မနက် (၅)-နာရီမှာ အိပ်ရာက ထဖို့ ပြောတယ်။

3.3. 対象の補語として2 「…しようと」

ကျနော် မြစ်ကြီးနားမှာ နှစ်ပတ်ကျော် နေဖို့ ရည်ရွယ်တယ်။
ဆိုင်ရှင်က ဦးလေးကို စက်ဘီး ချက်ချင်း ပြင်ပေးဖို့ ကတိပေးတယ်။

3.4. 主語 「…するのが」「…したほうが」

မောင်အေး မလာဖို့ သေချာတယ်။ ရှင် ဒီကောင်နဲ့ ရန်ဖြစ်ဖို့ မကောင်းဘူး။

名詞化節・-တို့による複合名詞の「もの」用法

- ・-တာによる名詞化節は「…するもの」「…であるもの」を、-တို့による複合名詞は「…ためのもの」を表す。

ခင်ဗျား ကြိုက်တာ ဝယ်ပေးမယ်။ ပိုလှတာကို လိုချင်တယ်။ တလေး စားဖို့ ရှိသလား။

第15課 非動詞文と談話の流れを表す小辞

1. 非動詞文

第2課で学習した名詞文は、実は非動詞文という、より大きなグループの中の1種に過ぎない。ビルマ語の主要な文のタイプは、動詞文vs.名詞文の対立というよりはむしろ、動詞文vs.非動詞文、すなわち、**動詞句+文をつくる小辞**という型の基本構造を持つか、あるいはそうでないかの対立を示す。

非動詞文の構造は、次のようになっている。

(主語) 述部 (+話し手のモードを表す小辞)

・主語が何を指すかが話し手-聞き手の間で了解されている場合、主語を省略してよい。

述部となるものには名詞(句)のほかに、名詞化節・格句・従属節・引用文などがある。

1.1. 小辞・格名詞によってつくられる格句を述部とする文

ဝိုင်-အမ်-စီ-အေ ဘယ်မှလဲ။ -- မဟာဗန္ဓုလလမ်းနဲ့ သိမ်ဖြူလမ်း လမ်းဆုံမှာ။
ဘယ်ကလဲ။ -- ပုသိမ်ကပါ။ ဒီလူ ရုပ်ရှင်မင်းသားလို့ပဲ။ ဒီရေပုံး ဘာအတွက်လဲ။

1.2. 引用文を述部とする文

ဘယ် သွားမလို့လဲ။ -- ကျနော်လဲ ရန်ကုန်ဆိပ်ကမ်း သွားမလို့ပါ။

1.3. -တာ-မှာ文

- ・これはつまり、-တာ-မှာによってつくられた名詞化節が単独で文として用いられたものである。
- ・先に話された文や、眼前の出来事・状況に対して、理由や背景説明などを付け加えるために用いられる。
- ・日本語に訳す際には、「…のだetc.」「…んだetc.」とすれば間違いない。逆に、日本語の「…のだ」で終わる文を訳す際には-တာ-မှာ文を用いること。

ဒါ ဂျပန်လူမျိုးပဲ။ ဗမာလို ဝတ်ထားတာ။ အဖေ မနက်ဖန် ဆေးရုံ တက်ရမှာပဲ။
မနေ့က ကိုသန်းကျော်နဲ့ မတွေ့တာလား။ cf. မနေ့က ကိုသန်းကျော်နဲ့ မတွေ့ဘူးလား။
ကျမ သမိုင်းလမ်းဆုံက ဆိုက်ကားနဲ့ ပြန်လာတာပါ။

※<丁寧な話し手のモード>を表す小辞-ပါを、絶対に-တာ-မှာの直前に置いてはならない。

✗ကျမ သမိုင်းလမ်းဆုံက ဆိုက်ကားနဲ့ ပြန်လာပါတာ။ cf. ပြန်လာပါတယ်။

2. 談話の流れを表す小辞

談話の流れを表す小辞は、名詞(句)(副詞的なものを含む)・格句・従属節・引用文などの文法的単位に付いて(ということは、これら格句や節をつくる小辞などの後に付いて、ということになる)、これらの単位が、先行文脈中の文やその構成単位に対してどのような関係にあるかを表すものである。

-လည်း(-လဲ) <付加>「…も」

・この小辞が付く要素に関して、前の文で述べた事柄が同様に当てはまることを表す。

ကိုကျော်ဇင် ကြေးအိုး စားတယ်။ ကိုရာဇာအောင်လည်း (ကြေးအိုး) စားတယ်။
စာအုပ်ဆိုင် ပန်းဆိုးတန်းမှာ မှားတယ်။ ဗိုလ်ချုပ်လမ်းမှာလည်း မနည်းဘူး။
သူ သူဌေး မဟုတ်တာ သေချာတယ်။ ဒါပေမယ့် ဆင်းရဲတယ်လို့လဲ မဆိုနိုင်ဘူး။
မနက်ဖန် မိုး ရွာရင်လည်း ကျနော် လာမယ်။(第9課を参照)

・並列の関係にある複数の文の全てに-လည်း(-လဲ)が現れることも多い。この場合の-လည်း(-လဲ)は、文が並列関係にあることを表す働きを持つと考えてよい。「…も。～も。」

ဒီဆိုင်မှာ ဗမာမဂ္ဂဇင်းလဲ ရောင်းတယ်။ ဗွီဒီယိုခွေလဲ ငှားလို့ ရတယ်။

-တော့ <対比>「…は」

・この小辞がつく要素に関して、前の文で述べたのと異なる事柄が当てはまることを表す。

ကျနော် သမိုင်း လေ့လာတယ်။ နှမလေးတော့ သင်္ချာ လေ့လာတယ်။
ကျမ မင်းကွတ်သီး ကြိုက်တယ်။ ဆီးသီးတော့ သိပ် မကြိုက်ဘူး။
ဘာသာပြန်ရင် အလုပ် ပြီးပြီလို့တော့ မထင်ပါနဲ့။
တကယ်တော့ သူ ပြောတာ အရမ်း မြန်လို့ ကျမ လုံးဝ နားမလည်ဘူး။

-ကော <対比疑問>「…は？」

・この小辞がつく要素に関して、前の文との対比で何かを問う、ということを表す。

ကျနော့သူငယ်ချင်း ကြက်သွန် မစားတတ်ဘူး။ ချင်းကော စားတတ်သလား။
တောင်ကြီး ရောက်ရင်ကော ဘာ လုပ်မလို့လဲ။

・-ကောを含む疑問文とその答えを見ると、-ကော|-လည်း(-လဲ)|-တော့の関係がよくわかる。

ငါ ဈေး သွားမယ်။ မင်းကော သွားမလား။ -- ကျမလဲ သွားမယ်။ ကျမ(တော့) မသွားဘူး။

・何について問うのかが明白な場合には、-ကော以降の部分省略してかまわない。

အခု ကျနော် ညစာ စားမယ်။ ခင်ဗျားကော (စားမလား)။

-မှ <全否定であることの強調>(疑問語句+否定の動詞とともに)「(何・誰・どこetc.)も(…ない)」;

(「1…」や「少ない数量」を表す表現+否定の動詞とともに)「(1つ・1人・少しetc.)も(…ない)」

ဘာမှ မရှိဘူး။ ဘယ်ကိုမှ မသွားနဲ့။ ဘယ်တော့မှ မရဘူး။ ဘာအလုပ်မှ မလုပ်ဘူးလား။
တစ်ယောက်မှ မလာတာ။ တစ်ပြားမှ မပါခဲ့မိဘူး။ နည်းနည်းမှ မတတ်ရင် ပြဿနာပဲ။

-ပဲ <限定>「…だけ」

ဒါပဲ ရှိတယ်။ နည်းနည်းပဲ ဝီတာ တီးတတ်တယ်။ တစ်ယောက်တည်းပဲ နေတယ်။

<強調>「…こそ」 ※話し手のモードを表す小辞として用いられる場合と同様に、訳出できないこともある。

ခင်ဗျား ပြဇာတ် ဝါသနာပါလို့ပဲ ဒီလက်မှတ် ပေးတာပါ။

3.主語につく小辞-တာ ※決して主語をつくる小辞ではない。これがなくても主語にはなれるのだ。

・「～というのはねえ…」という具合に、改まった(もったいぶった?)調子で主語について語る場合でなければ、ことさらに使う必要はないし、また正真正銘の口語体では使わないのが普通である。

・もし使われるとすれば、主語が文頭にある場合が多い。

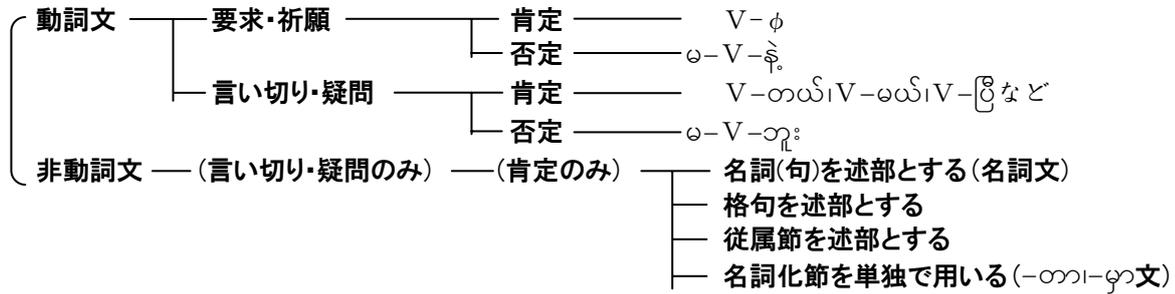
သီပေါမင်းတာ ဝဂဂဝ-ခုနှစ်က ဝဂဂဝ-ခုနှစ်အထိ မြန်မာပြည်ကို အုပ်ချုပ်ခဲ့ပါတယ်။

・特に、主語が疑問語句である場合と、要求・祈願の文の場合には、主語に-တာをつけないこと。

✕ဘယ်သူဟာ မေးသလဲ။ ✕ရှင်ဟာ မစောင့်ပါနဲ့။ ✕ကျနော်ဟာ ကြည့်ပါရစေ။

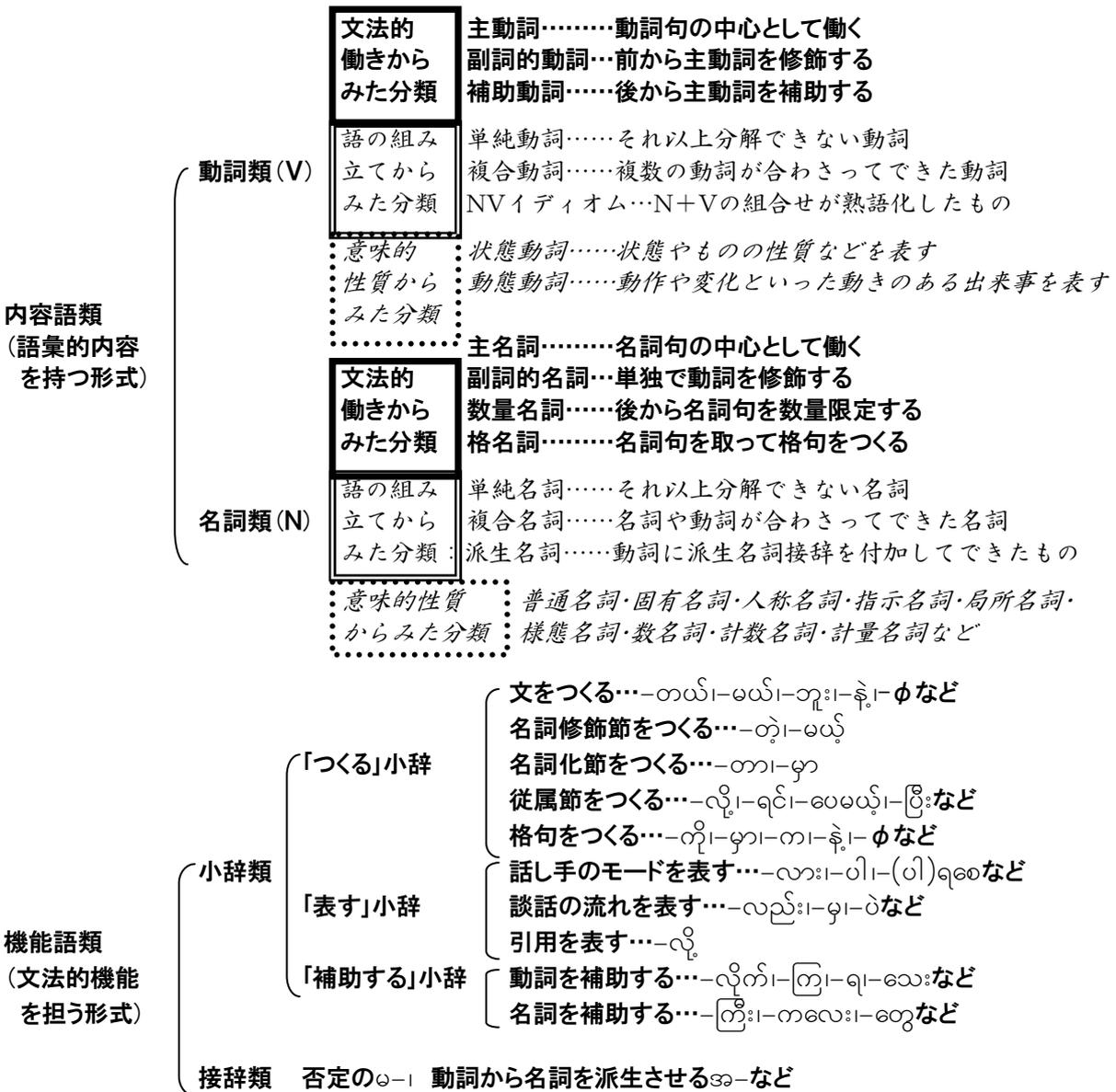
口語体ビルマ語の文法に関する総まとめ

☆文の分類(バージョン2)



etc.

★ビルマ語の語類(バージョン2)



索引

1.ビルマ語形式索引

・配列はミャンマー連邦教育省ビルマ語委員会編纂の辞典にほぼ従った。

・語類表示中に用いられる略号は次の通りである：

N…名詞、V…動詞、接…接辞、つ…「つくる」小辞、表…「表す」小辞、補…「補助する」小辞。

下位分類の略号については、文法事項索引のそれぞれの項を参照。

・等位接続と列挙の小辞の下位分類はまだよくわからないので、とりあえず保留しておく。

・語より大きい単位に対しては、原則として語類表示を与えていない。

㊦

-က	つ:格句(主語)	3課1.2	6
-က	つ:格句(起点)	3課4.	7
-က	つ:格句(名詞修飾)	12課3.	25
-ကော	表:談話	15課2.	31
-ကို	つ:格句	3課1.2、2.、13課2.1	6,27
ကိုး	N:数	7課1.	14
ကောင်	N:計数	7課2.1	14
ကျနော့	N:人称	4課2.	9
ကျနော့-	N:人称	4課2.	9
ကျနော်	N:人称	4課2.	9
ကျမ	N:人称	4課2.	9
ကျမ-	N:人称	4課2.	9
-ကြ	補:V	6課	13
ကြား	→(အ)ကြား		
-ကြည့်	V:補助	10課2.1	20

㊧

ခု	N:計数	7課2.1	14
ခုနှစ်	N:数	7課1.	14
-ခု	補:V	6課	12
ခင်ဗျာ့	N:人称	4課2.	9
ခင်ဗျာ့-	N:人称	4課2.	9
ခင်ဗျား-	N:人称	4課2.	9
Vခိုင်း	V:複合	5課2.2	11
Vချင်	V:複合	5課2.2	11
ချောင်း	N:計数	7課2.1	14
ခြောက်	N:数	7課1.	14

၀

၀ါး N:数 7課1. 14

၀

၀- V:副詞的 11課2.2 23
 V၀၀ V:複合 5課2.2 11
 (-၀ါ+)၀၀ 表:モード 13課2.2 27
 -၀ိ 表:モード 13課2.3 27

၁၀

၁ိ N:局所 4課3. 9
 ၁က်- V:副詞的 11課2.2 23
 ၁ယ် N:位数 7課3. 15

၂

၂ာဘက် N:局所 4課3. 9

၀

-၀ာ ဖ:名詞化節 14課2., コラム、15課1.3 28-29,30
 -၀ဲ ဖ:名詞修飾節 12課2. 24
 -၀ဲ 表:モード 13課3. 27
 -၀ော့ 補:V 6課、13課1.2 13,26
 -၀ော့ 表:談話 15課2. 31
 ၀် N:数 7課1. 14
 V၀တ် V:複合 5課2.2 11
 ၀ယ်- V:副詞的 11課2.1 23
 -၀ယ် ဖ:文 1課1.2、まとめ1 1,5

၀၀

-၀ာ: V:補助 10課2.1 20
 ၀ဲ →အဲ
 ၀က် N:格 8課 17

ထောင်	N:位数	7課3.	15
ထပ်-	V:副詞的	11課2.2	23

၅

ဒါ	N:指示	4課1.	8
ဒီ	N:指示	4課1.	8
ဒီ-	N:指示	4課1.	8
ဒီတော့		9課3.	19
ဒီဘက်	(N:局所)	4課3.	9
ဒီဟာ	(N:指示)	4課1.	8

၆

နား	→(အ)နား		
-နေ	V:補助	10課2.2	21
-နဲ့	つ:格句	3課4.	7
-နဲ့	等位接統	12課4.	25
(မ-)-နဲ့	つ:文	1課1.5、まとめ1、13課2.	2,5,26
နောက်	N:局所	4課3.	9
Vနင်	V:複合	5課2.2	11
နှစ်	N:数	7課1.	14

၇

-ပါ	表:モード	1課1.6、2課2.1、まとめ1、13課1.2、 15課1.3	2,3,5,26,30
-ပါ+စေ	→(-ပါ+)စေ	13課2.2	27
-ပါ+ရစေ	→(-ပါ+)ရစေ	13課2.1	26
-ပေမယ့်	つ:従属節	9課1.	18
-ပေး	V:補助	10課2.1	21
-ပဲ	表:モード	13課4.	27
-ပဲ	表:談話	15課2.	31
(မ-)-ပဲ	つ:従属節	9課1.	19
ပေါ်	→အပေါ်		
ပို-	V:副詞的	11課2.1	22
-ပုံ	つ:文	9課コラム	19
-ပုံ:	V:補助	10課2.2	21

-၉း	つ:従属節	9課1.、10課1.、11課2.1	18,20,22
၉းတော့		9課3.	19
၉း-	V:副詞的	11課2.3	23

၀

-၀း	補:V	6課	13
-၀း-	N:複合	14課3.,コラム	29

၁

၁	N:指示	4課1.	8
၁-	N:指示	4課1.	8
(၁-)-၁း	つ:文	1課1.4、まとめ1	2,5
-၁း	→-၀း		
-၁ဲ	→-၀ဲ		
(၁-)-၁ဲ	→(၁-)-၀ဲ		
၁က်	N:局所	4課3.	9
၁ယ်	N:指示	4課1.	8
၁ယ်-	N:指示	4課1.	8
၁ယ်၁က်	(N:局所)「左側」	4課3.	9
၁ယ်၁က်	(N:局所)「どちら側」	4課3.	9
၁ယ်သူ	N:人称	4課2.	9
၁ယ်သူ့	N:人称	4課2.	9
၁ယ်သူ့-	N:人称	4課2.	9
၁ယ်ဟာ	(N:指示)	4課1.	8

၂

၂-	接	1課1.4-5、2課2.2、まとめ1、 5課1.-2.、10課1.、11課2.1	2,3,5,10-11,20,22
၂--နဲ	→(၂-)-နဲ		
၂--၀ဲ	→(၂-)-၀ဲ		
၂--၁း	→(၂-)-၁း		
၂--၁ဲ	→(၂-)-၀ဲ		
၂ဟုတ်၁း		2課2.2	3,5
-၂ိ	補:V	6課	12
-၂ယ်	つ:文	1課1.3、まとめ1	1,5

-မယ့်	つ:名詞修飾節	12課2.	24
-မှ	表:談話	15課2.	31
-မှာ	つ:格句	3課3.	7
-မှာ	つ:名詞化節	14課2., コラム、15課1.3	28-29,30

ဝ

ယောက်	N:計数	7課2.1	14
-------	------	-------	----

ရ

-ရ	補:V	6課	13
(-ပါ+)ရစေ	表:モード	13課2.1	26
-ရအောင်	表:モード	13課2.3	27
ရာ	N:位数	7課3.	15
-ရာ	列举	12課4.	25
-ရင်	つ:従属節	9課1.	18
-ရယ်	列举	12課4.	25
ရှေ့	N:局所	4課3.	9
ရှင်	N:人称	4課2.	9
ရှင်	N:人称	4課2.	9
ရှင်-	N:人称	4課2.	9
ရှစ်	N:数	7課1.	14

လ

-လာ	V:補助	10課2.2	21
-လား	表:モード	2課4.1、まとめ1、13課1.1	4,5,26
လေး	N:数	7課1.	14
-လဲ	表:モード	2課4.2、まとめ1、13課1.1	4,5,26
-လဲ(-လည်း)	→-လည်း	15課2.	30-31
လို	N:格	8課、12課3.	16,25
-လို	つ:従属節	9課1,2.	18
-လို ကောင်း-		9課2.	19
-လို ပြီး-		9課2.	19
-လို ဖြစ်-		9課2.	19
-လို ရ-		9課2.	19
-လို	表:引用	14課1.	28

လောက်	N:格	8課	17
-လောက်	補:数	8課	17
-လိုက်	補:V	6課	12
-လည်း	表:談話	15課2.	30-31
လုံး	N:計数	7課2.1	14

ဝ

သာ-	V:副詞的	11課2.1	22
သူ	N:人称	4課2.	9
သူ့	N:人称	4課2.	9
သူ့-	N:人称	4課2.	9
-သေး	補:V	6課、13課1.2	13,26
သို့မဟုတ်		12課4.	25
သောင်း	N:位数	7課3.	15
သန်း	N:位数	7課3.	15
သိန်း	N:位数	7課3.	15
သိပ်-	V:副詞的	11課2.1	23
သုံး	N:数	7課1.	14
-သွား	V:補助	10課2.2	21

ဟ

-ဟာ	表:談話	15課3.	31
ဟို	N:指示	4課1.	8
ဟို-	N:指示	4課1.	8
ဟိုဘက်	(N:局所)	4課3.	9
ဟိုဟာ	(N:指示)	4課1.	8
ဟုတ်-	V	2課2.2	3,5

အ

အ-	接	8課コラム	17
(အ)ကြား	N:局所	4課3.	9
အတိုင်း	N:格	8課	16
အတွက်	N:格	8課、12課3.	16,25
အထိ	N:格	8課	17
(အ)ထဲ	N:局所	4課3.	9

(အ)နား	N:局所	4課3.	9
(အ)ပေါ်	N:局所	4課3.	9
အပြင်	N:局所	4課3.	9
အပြင်	N:格	8課	16
အဲဒါ	(N:指示)	4課1.	8
အဲဒီ	(N:指示)	4課1.	8
အဲဒီ-	(N:指示)	4課1.	8
အဲဒီတော့		9課3.	19
အဲဒီဟာ	(N:指示)	4課1.	8
အောက်	N:局所	4課3.	9
-အောင်	つ:従属節	9課1.	18
-ပို:	補:V	6課、13課1.2	13,26

φ

- φ	つ:文	1課1.6、まとめ1、13課2.	2,5,26
- φ	つ:格句	3課6.	7

2. 文法事項索引

特に参照すべき課・節・項とページをゴシック体で示した。

あ行

相手		3課5.	7
「表す」小辞		まとめ1	5
引用される要素を—	(表:引用)	14課1.1	28
談話の流れを—	(表:談話)	15課2.	31-32
話し手のモードを—	(表:モード)	13課	26-27
言い切り		1課1.2-4、2課2.1-2、まとめ1	1,3,5
否定の—		1課4、2課2.2	1,3
位置の補語		3課3.	7
引用文		14課1.	28
—を述部とする文		15課1.2	30

か行

格関係		3課6.	7
格句		3課6.	7
名詞を修飾する—		12課3.	25
—を述部とする文		15課1.1	30
—をつくる小辞		3課6.、8課	7,15
格名詞		8課	16-17

下降調形		
人称名詞の—	4課2.1、12課	9,24
過去の出来事	1課1.2,4	1
起点の補語	3課4.	7
機能語類	まとめ1	5
疑問	2課4.、まとめ1、13課1.1	4,5,26
疑問語句	2課4.2、13課1.1、15課2.、3.	4,26,31
疑問文	まとめ1	5
yes-no—	2課4.1、13課1.1	4,26
wh—	2課4.2、13課1.1	4,26
疑問語句を含む—	2課4.2、13課1.1	4,26
二者択一—	2課4.1、13課1.1	4,26
強調のモード	13課4.	27
局所名詞	4課3	9
禁止	1課1.5	2
位の数の名詞	7課3.	15
計数名詞	7課2.1	14
計量名詞	7課2.2	14
現在の習慣	1課1.2,4	1
現在の出来事	1課1.2,4	1
口語体	2課3.	4
さ行		
指示名詞	2課3.、4課1.	4,8
ものの—	4課1.1	8
場所の—	4課1.2	8
—の名詞修飾形	4課1.3、12課	8,24
従属節	9課	18-19
—をつくる小辞	9課	18-19
主語	2課3.、14課2.2,3.4、15課3.	3,29,31
述部	3課、15課1.	6,30
主動詞	3課6.、10課2.、11課	7,20-21,22-23
小辞類	まとめ1	5
状態動詞	1課1.3、まとめ1、5課2.2、10課2.	1,5,11-12,20-21
推量された出来事	1課1.3-4	2
数名詞	7課1.	14
数量表現	7課2.	14
—を補助する小辞	8課	17
接辞類	まとめ1	5
想像された出来事	1課1.3-4	2

た行

対象の補語		3課1.、14課2.2,3.2-3	6,29
2つの—		3課1.3	6
談話の流れを表す小辞		15課2.	31-32
着点の補語		3課2.	7
「つくる」小辞		まとめ1	5
格句を—	(つ:格句)	3課6.	7
従属節を—	(つ:従属節)	9課	18-19
文を—	(つ:文)	1課1.1-6、9課コラム	1,19
名詞化節を—	(つ:名詞化節)	14課2.	28
名詞修飾節を—	(つ:名詞修飾節)	12課2.	24
出来事名詞		8課コラム	17
伝聞のモード		13課3.	27
道具		3課5.	7
動作動詞		10課2.2	21
動詞			
意志的な動作を表す—		10課2.	20-21
主—		3課6.、10課2.、11課	7,20-21,22-23
状態—		1課1.3、まとめ1、5課2.2、10課2.	1,5,11-12,20-21
単純—		5課	10
動作—		10課2.2	21
動態—		1課1.3、まとめ1、5課2.2、10課2.	1,5,11-12,20-21
複合—	(V:複合)	5課2	10
副詞的—	(V:副詞的)	11課	22-23
変化—		10課2.2	21
補助—	(V:補助)	10課2.	20-21
無意志的な変化を表す—		10課2.	20-21
—+名詞の組み合わせ		5課1.	10
—の重複		11課コラム	23
—を補助する小辞		6課	12-13
—をとりまく要素		3課、8課、9課、14課	6
動詞句		9課	18
動詞文		1課1.、まとめ1	1,5
動詞類		まとめ1	5
動詞連続		10課、11課	18-21
—の基本型		10課1.	18
動態動詞		1課1.3、まとめ1、5課2.2、10課2.	1,5,11-12,20-21

な行

内容語類	まとめ1	5
二者択一疑問文	2課4.1、13課1.1	4,26
人称名詞	2課3., 4課1.	4,9
—の下降調形	4課2.1	9
—の名詞修飾形	4課2.2、12課	9,24
は行		
派生名詞	8課コラム、11課コラム	17,23
前接辞 [㊦] -による—	8課コラム	17
動詞の重複による—	11課コラム	23
話し手がこれから行う	1課1.3-4	2
つもりの出来事		
話し手のモード	13課	26-27
—を表す小辞	13課	26-27
否定	1課1.4-5、2課2.2、まとめ1、 15課2.	1,3,5,31
名詞文の—	2課2.2	3
—の言い切り	1課4、2課2.2	1,3
非動詞文	まとめ1、15課1.	5,30
格句を述部とする—	15課1.1	30
引用文を述部とする	15課1.2	30
—		
複合動詞	5課2.	10
語彙的な—	5課2.1	10
文法的な—	5課2.2	11
複合名詞	14課3.	29
- [㊦] による—	14課3.、コラム	29
「副詞的」	11課1.	22
—な名詞	11課1.	22
副詞的動詞	11課	22-23
普通名詞	まとめ1	5
不変の出来事	1課1.2,4	1
文をつくる小辞	1課1.1-6	1
変化動詞	10課2.2	21
補語	3課	6
位置の—	3課3.	7
起点の—	3課4.	7
対象の—	3課1.、14課2.2,3.2-3	6,29
着点の—	3課2.	7
「補助する」小辞	まとめ1	5
数量表現を— (補:数量表現)	8課	17

動詞を—	(補:V)	6課	12-13
名詞を—	(補:N)	12課1.	24
補助動詞		10課2.	20-21

ま行

未来の出来事		1課1.3-4	2
名詞		3課	6
格—	(N:格)	8課	16-17
局所—	(N:局所)	4課3	9
位の数の—	(N:位数)	7課3.	15
計数—	(N:計数)	7課2.1	14
計量—	(N:計量)	7課2.2	14
指示—	(N:指示)	2課3., 4課1.	4,8
出来事—		8課コラム	17
人称—	(N:人称)	2課3., 4課2.	4,9
派生—		8課コラム、11課コラム	17,23
普通—		まとめ1	5
もの—		8課コラム	17
—を修飾する格句		12課3.	25
—をとりまく要素		12課	24-25
—を補助する小辞		12課1.	24
名詞化節		14課2., コラム	28-29
—をつくる小辞		14課2.	28
名詞句		3課、12課	6,24-25
—の等位接続		12課4.	25
—の列挙		12課4.	25
名詞修飾形			
指示名詞の—		4課1.3、12課	8,24
人称名詞の—		4課2.2、12課	9,24
名詞修飾節		12課2.	24-25
—をつくる小辞		12課2.	24
名詞文		2課2., まとめ1	3,5
名詞類		まとめ1	5
モード			
話し手の—		13課	26-27
要求と祈願の—		13課2., 15課3.	26,31
伝聞の—		13課3.	27
強調の—		13課4.	27
もの名詞		8課コラム	17
「もの」用法		14課コラム	29

や・ら・わ行

要求		1課1.6、まとめ1	2,5
要求と祈願のモード		13課2., 15課3.	26,31

その他

-のり-の文	15課1.3	30
NVイディオム	5課1.2	10
wh疑問文	2課4.2、13課1.1	4,26
yes-no疑問文	2課4.1、13課1.1	4,26